平成24年 第4回(定例)由布市議会会議録(第3日)

平成24年12月10日(月曜日)

議事日程(第3号)

平成24年12月10日 午前10時00分開議

日程第1 一般質問

本日の会議に付した事件

日程第1 一般質問

出席議員(20名)

1番 鷺野 弘一君	2番 廣末 英徳君
3番 甲斐 裕一君	4番 長谷川建策君
5番 二ノ宮健治君	6番 小林華弥子君
7番 高橋 義孝君	8番 新井 一徳君
9番 佐藤 郁夫君	10番 佐藤 友信君
11番 溝口 泰章君	12番 西郡 均君
13番 淵野けさ子君	14番 太田 正美君
15番 佐藤 正君	16番 佐藤 人已君
17番 田中真理子君	18番 利光 直人君
20番 工藤 安雄君	21番 生野 征平君

欠席議員(なし)

欠 員(2名)

事務局出席職員職氏名

局長 秋吉 孝治君	書記 江藤 尚人君
書記 三重野鎌太郎君	書記 伊藤 裕乃君

説明のため出席した者の職氏名

市長	首藤 奉文君	副市長	島津 義信君
総務部長	佐藤 式男君	総務課長	麻生 正義君
財政課長	梅尾 英俊君	総合政策課長	溝口 隆信君
防災安全課長	御手洗祐次君	契約管理課長	安部 悦三君
会計管理者	佐藤 忠由君	産業建設部長	工藤 敏文君
農政課長	平松 康典君	建設課長	麻生 宗俊君
水道課長	秋吉 一郎君	健康福祉事務所長	衛藤 義夫君
福祉対策課長	衛藤 哲雄君	子育て支援課長	小野 啓典君
環境商工観光部長	相馬 尊重君	環境課長	生野 重雄君
挾間振興局長	志柿 正蔵君	庄内振興局長	工藤 浩二君
湯布院振興局長	松本 文男君	教育次長	森山 泰邦君
教育総務課長	日野 正彦君	社会教育課長	加藤 勝美君
消防長	大久保一彦君	消防本部総務課長	大久保 篤君

午前10時00分開議

○議長（生野 征平君） 皆さん、おはようございます。議員及び市長初め執行部各位には、本日もよろしくお願ひ申し上げます。

ただいまの出席議員数は20名です。定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。

執行部より、市長、副市長、各部長、関係課長の出席を求めています。

本日の議事日程は、お手元に配付の議事日程第3号により行います。

一般質問

○議長（生野 征平君） これより日程第1、一般質問を行います。

質問者の持ち時間は、質問・答弁を含め1人1時間以内となっております。質問者、答弁者とも簡潔に、また節度ある発言をお願いいたします。

それでは、通告制となっておりますので、順次質問を許可します。

まず、11番、溝口泰章君の質問を許します。溝口泰章君。

○議員（11番 溝口 泰章君） おはようございます。政策研究会の溝口泰章でございます。ほんとに、きょう朝湯布院をたつて挾間まで参るときに、この12月議会はいつも思うんです。チヌホの雪、そして湯布院の状態とこの挾間の状態の違い、まさに、我が家、起きて窓をあけたときには、我が家はいまだにカヤぶきでございますが、屋根の軒先からはつららが下ってお

ります。ずらっと並んで、朝日で輝く姿は美しいんですけども、それこそさぶいという感じがまず第1番目の印象でございます。車に乗って出ますと、もちろんスタッドレスでございます。道の両脇はいまだに雪が積もっております。竹の葉っぱにも杉の枝にも、いまだに雪がへばりついております。こちらのほうでは全く見ることでできない光景でございます。どうぞ皆さん、きょう中にでも湯布院のほうへ。

振り返りますとほんとに早い1年でございました。ことし残すところ3週間でございます。ことし最後の定例議会で、有終の美を飾るような一般質問ができればと念じております。執行部のお歴々の明快な、そして夢のあるような御答弁をぜひとも賜りたいとお願いいたすところでございます。

ただ、現在入院中の清永教育長に答弁いただけないところが少々力が抜けるところでございますが、療養中で、もう退院が近いというふうな情報をいただいております。清永先生のことでございます。ネット中継で今議会の様子をごらんになっていると推察しているところでございます。教育委員会関連の質問も今回でございますので、もし答弁漏れあるいは御感想など、清永先生には新年の互礼会におきまして感想をいただければ幸いです。もし清永先生、ごらんになっていたら、メモの用意をひとつお願いいたします。

では、ただいま議長の許可を得ましたので、早速一般質問に入らせていただきます。

大きく今回は2点質問させていただきます。1つは国民宿舎跡地の利用についてでございます。

国民宿舎の宿泊棟は、解体されて整地されて今更地となっておりますけれども、いまだ未解体の、利用されないまま放置されております研修棟や食堂棟という部分は来年解体だということを伺っておりますが、解体後の今後の跡地利用の計画について、小さく3点にわたってお伺いいたします。

1つは、検討委員会の諮問が平成23年2月になされた後、即3月11日、東日本大震災が勃発、その対応ともなります宿泊棟の避難利用などで、跡地利用の検討は遅滞したものとは考えております。しかし、平成24年、ことしの3月、1年の期間をかけて検討委員会は答申を提出いたしました。その中で、3年をめどに利用計画を策定して、早期の建設実現を要望しております。現時点での進捗状況はどうなっているのか伺います。

2点目が、旧国民宿舎跡地利用検討委員会という委員会に諮問したわけですが、この委員会が答申を指針という形で提出して、この指針をもとに、さらに論議が深まって、具体的に計画が策定されるというふうに想定して答申を提出しております。このプロセスを踏んで、市はどのように論議の深まりを進めてきたのかお伺いしたいと思います。

3点目は、中央公民館の老朽化による機能補充、補完と充実を求めた文化交流ゾーンとしての位置づけを中心に置いた答申でございます。そのようにまた理解できるんですけども、その点、

行政はどのように認識されているのかお伺いします。

大きく2点目、これは1点目とも関連で、内容的にはつながりがございます公民館の活動です。この充実、そして推進、その対策、構想についてお伺いいたしたいと思います。細かくは2点になりますが、この社会教育あるいは生涯教育の場と機能の中心となる公民館でございますが、子どもたちの健全育成という面と定年退職なさった後のリタイア層の生きがい創出にとってこの公民館はかけがえのない機能を果たす公的機関であります。また、そして中核となる存在でもございます。その活動の充実策について、これからの細かい2点、お伺いいたしたいと思います。

公民館を利用する市の外郭諸団体の多くは、その事務手続を公民館職員の力に負うことが大でございます。昨年度の監査報告では、この事務手続を団体自身で行えというふうな意見が出されました。質疑でも私、その点、ただしましたが、この意見をどのように理解してその後の事務執行に当たっているのかお伺いいたしたいと思います。

小さく2点目は、公民館における活動で、子どもの利用者とリタイア層の利用者という形で、2つに分かれた形の公民活動というふうには私は理解して、そういうふうに見受けておりますが、こういう場面があるということを活用して、リタイア層が子どもたちを指導するという生涯学習のパターン、あるいはこれを社会教育と呼ぶのかもしれませんが、こういう場面の創出に行政がどのように取り組んでいるのか、具体的にお伺いいたしたいと思います。

先ほども申しましたが、答弁のほど、夢を我々に、そして、市民の皆さんに提示できるような明快な、そして短い御答弁をいただきますようお願いいたしたいと思います。

再質問につきましては、前席で行わせていただきます。よろしくようお願いいたします。

○議長（生野 征平君） 市長。

○市長（首藤 奉文君） 皆さん、おはようございます。先ほど、11番、溝口議員のお話にありましたけれども、ほんとに寒い12月になりました。ほんとに私も挾間から庄内、湯布院、湯布院から庄内、挾間と行き来をするたびに、季節の違いを如実にいつも感じているんですけれども、特に寒い12月は、非常に寒さが身にしみて、それぞれの地域の違いがほんとによくわかっております。それだけ住む人たちの思いもまた違うんじゃないかなという思いもございます。

それでは、11番、溝口泰章議員の御質問にお答えいたします。

国民宿舎跡地利用の進捗状況についてであります。旧国民宿舎跡地利用計画検討委員会によりまして、ことしの3月末に長期利用計画を含めた最終答申が出されましたし、いただきました。最終答申書では、維持管理費、防犯上の問題、景観上の観点などから、残っている研修棟、食堂棟について早期に取り壊すとの報告でございましたので、25年度に取り壊しを行う予定にしております。

また、最終答申書では、跡地につきましては、地域住民はもとより、市民の地域活性化に資す

る利用を求められております。現在、関係部局で協議を行っているところでありますが、利用推進には一定の財源確保も必要でありますことから、報告書にもございますように、3年をめぐりとして具体的な利用計画を策定したいと考えておりますし、夢のある計画を策定していきたいというふうに考えております。

以上で、私からの答弁は終わります。

○議長（生野 征平君） 教育次長。

○教育次長（森山 泰邦君） 教育次長でございます。教育長欠席のため、かわってお答えいたします。

社会教育関係団体の事務でございますが、監査報告の指摘事項の改善について検討いたしまして、各団体の自立性を高めるために、事務等の運営機能を向上していくことを再確認いたしました。

しかしながら、各団体の成立過程等で、教育行政と密接なつながりを持つ団体もございまして、急激な事務の移行は団体の活動に支障を来すおそれもあります。これまでの経過を踏まえ、必要な団体につきましては事務の支援を継続しながら、団体の独立性や自主性が向上するよう、組織強化に協力してまいりたいと考えております。

続いて、団塊の世代を初め高齢者と子どもたちの交流の場面の創出でございますが、学校だけではなく、地域、家庭が一体となつての教育のあり方が現在の社会教育の大きなテーマとなっております。団塊の世代や高齢者を活用し、新たに学習意欲を喚起させる場として、団塊の世代を初め高齢者が長年培ってきた価値観に触れる機会を充実させることが必要でございます。現在、学校からの要請により、校区内の人材が学校の教育活動に携わっていく学校支援活動や学校のない下校後や休日等の時間帯に地域が子どもたちを支えていく放課後子ども教室などを中心に、多くの地域の力、とりわけ団塊の世代を初め高齢者の力を活用するよう努めているところでございます。

以上でございます。

○議長（生野 征平君） 溝口泰章君。

○議員（11番 溝口 泰章君） 最初のほうの国民宿舎の跡地利用につきましては、もう過去幾度となく質問、また提言がなされているところでございます。今回は、湯布院の中心地域に当たる跡地を、また、その中核となるような施設をという意味合いでも答申に盛り込まれておりますので、この建設に当たってのビジョンを市民目線、そして市民のためという考えのもとで、再質問に入らせていただきたいと思います。

1つは、先ほど市長、入っていくのかなと思いましたが、答申を受けた後の執行部の協議の体制のありようです。それと内容なんですけれども、その体制をどういうふうに組織化して、

その組織でどのような内容が今検討されているのかをお伺いしたいんですけども。

○議長（生野 征平君） 総務部長。

○総務部長（佐藤 式男君） 総務部長です。お答えします。

まず、もともとのこの委員会の担当でした総合政策課を中心にして、今は契約管理課、それから湯布院の地域振興課、そういったところを中心に検討しているところでございます。

以上です。

○議員（11番 溝口 泰章君） もう一点、内容が。

○議長（生野 征平君） 総務部長。

○総務部長（佐藤 式男君） 内容についてはまだ具体化したものは出ていません。

○議長（生野 征平君） 溝口泰章君。

○議員（11番 溝口 泰章君） 答申の中にも入っておりますけれども、これを材料としてという表現で、この委員会自体は答申を指針という位置づけをして、方向性を示すと。その後、さらなる論議が深まって具体的な利用計画が策定され事業が推進されていくことを想定しています。これが答申内容の流れを表現しているというふうに思います。ですからこそ論議の深まりを行政がセッティングしなきゃいけないことになるわけです。その辺の自覚はございましたか。

○議長（生野 征平君） 総務部長。

○総務部長（佐藤 式男君） はい、自覚をしております。

○議長（生野 征平君） 溝口泰章君。

○議員（11番 溝口 泰章君） 答申が3月に出されて、今12月でございます。セッティングを考えておられるんだったら、具体的に何かこういうことが出てきたとか、あるいは答申によってこういう点に気づかされたとかいう御感想もあつてしかるべきだと思うんですけども、そのあたり、少し具体的にお教えください。

○議長（生野 征平君） 総務部長。

○総務部長（佐藤 式男君） 総務部長です。まず、答申書にも書かれているんですけども、1つは道路の問題、前の道路と横の問題、この拡幅等の問題が1つあります。あと、中については、1つは湯布院の公民館の老朽化というのも出ています。こういった問題も教育委員会のほうで、これから先どうすればいいのかというのを検討して行って、今いる状況ですので、そういったところを待って、また具体的な議論に入っていきたいというふうに考えております。

○議長（生野 征平君） 溝口泰章君。

○議員（11番 溝口 泰章君） 具体的に入るのは、じゃ年度を越えるということですか。

○議長（生野 征平君） 総務部長。

○総務部長（佐藤 式男君） 年度を越えるかどうかはまだわかりません。年内に入る可能性もあ

ります。

○議長（生野 征平君） 溝口泰章君。

○議員（11番 溝口 泰章君） とりもあえず、答申を出してくださった検討委員会のほうにそのことをお伝えする。そして、どういうふうに進めていこうと思っているというふうな答申内容の指針として出したという部分に対する答えを検討委員会のほうにお返すのが、まずもって、9カ月も置かずにやるべきことじゃなかったんでしょうか。いかがでしょうか。

○議長（生野 征平君） 総務部長。

○総務部長（佐藤 式男君） 確かに時間はかかっているというふうに思っているんですけども、まず1つは、3年をめどにということも出ています。何カ月間ですぐ答えを出すというような問題でもないですし、やはり財政的な面も考えていかなければならないということから、現在はまだ具体的には入っていないという状況です。

○議長（生野 征平君） 溝口泰章君。

○議員（11番 溝口 泰章君） そこまで、悪いほうのそこまでですけども、そんなもんだったのかというふうな、今感想を持っているんですけども、この答申に書かれている、ほんと文言、ワンペーパーの中に全て入っているんですけども、この中から、行間を読まずとも中を読めば、本当に検討委員会がどのようなことを望んでいるのかということはすぐに酌み取ることができると思うんですよ。この文章の中から。

最初は基本的な考え方を述べてくださっています。そして、利用計画の方向性についてということで5点、これ途中で一方通行を取り消したんだというお話は何いしましたから、大きく4点になるかもしれない。こういう形の答申に対しては、すぐに姿勢と基本的な考え方についてと方向性でございますから、じゃ具体的にどうしようかという動きを行政が出してしかるべきだと私は考えているんです。ですから、タイムスケジュールがどうなるのかということが気になるし、実際にそうやって動いてもらわないと、この答申が出しっ放しのものになって、いつの間にか影を薄くしていく、そういう危険性もはらんでいると思いますので、このあたりの対応、独断でも構いませんから、いつぐらいに始めるべきで、3年をめどというのが、この答申を出した後の3年ですから、もうこれだけかかっているのに何も見えてこないというのは、私は不信を抱かざるを得ないんですけども、その辺、きちんと釈明していただきたいと思います。

○議長（生野 征平君） 総務部長。

○総務部長（佐藤 式男君） 総務部長です。釈明になるかどうかわかりませんが、1つは、大きくは財政面が大きくあります。例えば、公民館を建てるといたしましても、現在、社会教育課が中心に教育委員会の中で中央公民館のあり方等も検討している状況の中で、じゃ公民館建てましょうかということにはなかなかすぐにはならない。やはりその辺は十分なる検討が必要じゃ

ないかというふうに思っています。

○議長（生野 征平君） 溝口泰章君。

○議員（11番 溝口 泰章君） そのあたりのことはもう既に検討委員会のほうも、委員会の議論の中で十分にやっていて、中身、財政運営との整合性を図りながら、できるだけ早期に事業を実現していただくことを最後に要望しています。ですから、その辺はやっぱり動くべきだと思います。そして、議論すべきだと思います。その手前で財源が確保できるめどが立たないから議論にも入らないというふうに私は聞こえてしまうんです。これは両方並行して行って、財源をどうしようかという話は執行部内でいろいろと議論できます。これは検討委員会が云々かんぬんするところじゃございません。検討委員会はイメージでつくり上げてもらいたい。文化交流の中心となるような施設、公民館機能を果たせという補完充実してもらいたい多目的センター、これはもっとどんどん欲が深くなっていくような感じで、商工会の家とか観光の事務所系も入れたらどうかというふうにずっと膨らんでいるから、執行部としては後に引いたのかもしれないけれども、これは、それは無理だよという話も出てきて当然です。ただ、出さないままにじっと待っているのが私は納得いかないと言ってるんです。

それがきょうのテーマですから、もっとここで議論を深めていきたいと思いますが、今私が申し上げた財源の確保の手法、方法と、何を今後あの跡地につくり上げていこうか、市民の夢、希望が実現するような施設をつくり上げていこうかというこの議論、2本立てでやるべきだということにはどう対応なさいますか、この2種類を。財源と。

○議長（生野 征平君） 総務部長。

○総務部長（佐藤 式男君） 総務部長です。当然、財源の面と今言っています跡地利用の関係は一緒に進めていくべきだというふうに考えています。

○議長（生野 征平君） 溝口泰章君。

○議員（11番 溝口 泰章君） それでは、答申の、こういうのが欲しい、ああいうのが欲しいという内容で検討をどのようにしていつているのかをちょっとお伺いしたいんですけれども。3年間というタイムスパンを置いて建設計画が策定されることを望んでいますけれども、この3年間で今部長がおっしゃったように、一緒に、部長のほうは部長で財源をどうすれば、どこまでができるのかということは検討できると思いますが、この内容で委員会が伝えている建設の文化交流ゾーンというふうな位置づけをして、それがまたもうちょっと広がって、六所参宮線ですか、の位置づけです。これ鳥居から六所までの間だと思うんですけれども、あの線沿いに、確かに健康温泉館、福祉事務所、国民宿舎があって、一番向こうには、公的機関と言っても差し支えないでしょう。厚生年金病院がございます。ああいうゾーン、ゾーニングという形の都市計画をたしか湯布院町のときに描いていたと思うんですけれども、ああいう計画というのはもう死滅し

たんですか。健康福祉ゾーンという名前。

○議長（生野 征平君） 総合政策課長。

○総合政策課長（溝口 隆信君） 総合政策課長です。お答えいたします。

今、議員が御質問なされたゾーニングについては、新市の建設計画を受けて総合計画には反映させているというふうな理解でございます。

○議長（生野 征平君） 溝口泰章君。

○議員（11番 溝口 泰章君） ですから、総合計画でそれが地図に落とされているということになりますと、当然、どんなものを、ここに何をを用意して、どんな機能を果たさせて、そしてここに近い、一番近くにはこういうのを置かなきゃいけないというのが、イメージだけじゃなくてプランとして上がってくるはずなんです。その一端が今回のこの国民宿舎跡地に何をを用意すればいいんだろうかということで諮問を出したと思うんです。それに対して、検討した結果、中央公民館の老朽化があるから、その機能を補完充実するような機能を持たせた多目的センターが欲しいんだと。また、もうちょっと広げてしまって、観光や商工関係団体の事務所として利用することも検討してほしいと。これ以上はないぐらい入れているわけです。あとはカットしていけばいいわけです。てんこ盛りが来たわけですが、この部分が一番大事だから、ここからやろうというふうな進め方、これはもう話だけでも構わないわけですからフィードバックすべきであり、そして、それを受けたまた検討委員会が納得するなり、いや、それはちょっと待ってくれよというてやっとな議論が始まると考えていたんですけれども、しびれが切れちゃったわけです。

せんだっても、さきの議会ですか、長谷川議員が、あの跡地はどうするかと、同じような趣旨なんですけれども、タイムスケジュールは、これは必要だと思います。今後のスケジュールの立て方は置いておいても、その必要性について、具体的にどうやっていけますか。再確認。

○議長（生野 征平君） 総務部長。

○総務部長（佐藤 式男君） 総務部長です。どちらにしても、1つは道路を、先ほどいいましたように道路の関係でどのくらいの土地が取られるのかというのが1つ、一番最初だというふうに考えています。その後、もう一つは、答申にあります①の中央公民館の老朽化、この問題、実は湯布院公民館、また庄内公民館についても老朽化がかなり激しいということから、教育委員会のほうには中央公民館のあり方そのものを検討させています。その上で、湯布院公民館をどうしていくかというのを今からとっていかなければならない。だから、現実、表に出てくる、内容そのものが表に出てくるのはもう若干時間がいただきたいというふうに思っています。

○議長（生野 征平君） 溝口泰章君。

○議員（11番 溝口 泰章君） この答申のイメージに対する道路のありようというのはさほど私は大きくないと思います。あの土地が半分になるなりなれば大変ですけれども、何メートル下

がるのかぐらいの問題ですから、道路をどうするかといったって、ほかのところも含めて拡張することになると、これは壮大な計画になりますけれども、跡地を少し土地を提出して道路にしてといっても、細い道が入ってきて、ぽこっと途中で広がって、それで国民宿舎が終われば狭くなっている。向こうへ行くという形、あるいは城橋がもう既に、それを想定してかなり広げられておりますけれども、あのまま六所参宮線が建設されていくのか、これは相当長い時間がかかると思います。建設計画ができて実施するに当たって相当なエネルギーと財源が必要になります。

しかるに、それゆえに道路が先にけりがつかないと跡地の利用計画も立てられないというのであれば、これはもうそのまま、これから道路がきちっとできるまではあそこは手をつけないということに聞こえてしまいますよ。そういうふうになってしまう。その危険がありますよ。今の答弁を市民の方が聞いて、えっ、道路が先かい。こうなったら、出した答申が生きてこないことになっちゃう。その辺、きちんと。

○議長（生野 征平君） 総合政策課長。

○総合政策課長（溝口 隆信君） 総合政策課長です。お答えいたします。

今部長が答弁した道路に関しては、六所参宮線ではなくて、前回の6月議会で私御説明申し上げたんですけれども、消防自動車等が入らない狭い、いわゆる新町に抜ける市道です。あの分を今拡張するように、建設課のほう、地元と協議を終えてするような段取りをしているところでございます。

あわせて、6月議会でもまた御説明申し上げましたけれども、取り壊しについて、今どんな取り壊しが必要なのか。いわゆる緑の空間も含めた跡地利用も含めた取り壊しの予算の中身を検討しているところでございまして、大方は決まっているんですけれども、そういった問題がありますので、それとあわせて、長期計画については議論に入ったということでございます。中身はまだこれから進めるんですけれども、答申書にある中身は、中央公民館、公民館の機能を補完するというふうなことですけれども、それが中心になろうかと思うんです。さっき総務部長が答弁しましたように、この公民館の機能が今庁舎問題を議論していますけれども、庄内の公民館、それから湯布院の公民館も含めて、公民館機能がある程度はつきりしないとこの湯布院の公民館も、一応ここが柱になろうかと思うんですけれども、その機能がはつきりしないということになりますので、あわせてそれは進めていかないといけないというふうに思っています。基本的にはこの公民館プラス文化機能、情報機能をどこまでこの公民館プラスアルファのものにやっていくのかというふうな議論の中身になるかと思っておりますけれども、これからの議論だろうというふうに思っております。

以上です。

○議長（生野 征平君） 溝口泰章君。

○議員（１１番 溝口 泰章君） 道路については六所参宮線じゃなくて、地域の中にクランクで入っていくあの道路だけですね、今対象としているのは。はい、わかりました。それじゃ、前の道路は関係なくイメージはできるということでもいいですか。

○議長（生野 征平君） 総合政策課長。

○総合政策課長（溝口 隆信君） お答えします。

もちろん参宮線については、当然この公民館プラス文化機能等々の施設を議論するときに、当然拡幅云々というふうな議論は当然するべきだというふうに思います。

○議長（生野 征平君） 溝口泰章君。

○議員（１１番 溝口 泰章君） 段取りのつけようがある程度は見えますけれども、ただ、六所参宮線の拡幅、全体じゃなくて。国民宿舎の部分の拡幅と、それとクランク上の地元道路と言えはいいですか——の整備と、もう一つ最後に残るのは、じゃ何をつくるかという形の議論、これが総務部長の想定の中には段取りとしてステップアップですか、これをやってからこうやっていかなきゃいけないと段取りをつくっていますけれども、時系列的な流れで。ただ、イメージを出してくれた検討委員会に対して、その説明も必要ですし、当然。そして、答申を出してくれたこの中身に対して、我々はこういうふうを考えますというふうにお返りする、その段階はどこでどのように踏みましたか。総合政策課長がやったんですか。

○議長（生野 征平君） 総合政策課長。

○総合政策課長（溝口 隆信君） それは、今から具体的に、いいますように、3カ年の中で、財政面も含めて必要になってきますので、あらかじめの方針が出ないことには財政計画も立てられないということになりますので、市としてあらかじめの方針を立てた後に、一旦この検討委員会の方々に、こういう考え方で進みたいというふうなことは、財政も含めて、申し上げないといけないと思うんですけれども、その財政も含めた議論をこれからやっていくと。やっていく中身については、公民館機能プラスアルファ文化機能だとか情報機能をどこまで大方組み込むのか、この議論をこれからやっていくということでございます。

以上です。

○議長（生野 征平君） 溝口泰章君。

○議員（１１番 溝口 泰章君） おぼろげですが、スケジュールが見えてきました。じゃ、これからはその先の話になりますけれども、このゾーンの中で文化ゾーンとして——文化交流ゾーンとおっしゃっていましたね、答申の中では。文化機能を果たす施設として公民館というふうにだんだん今行政の絞り込みとが見えてきたんですけれども、この公民館は、当然事務機構の整備も必要でしょうけれども、どういうふうな機能を持たせるべきなのかというのは、これはもう、それこそ社会教育法じゃないですけれども、公民館を設置する義務はあるわけですから、行政に。

これを庄内と、ここには、挟間には未来館がありますから、未来館と庄内、問題になるのは未来館は除いた庄内と湯布院の充実はどうしていくのかということになるでしょうし、中央公民館というのは湯布院かなというふうに今課長がおっしゃいましたけれども、そういうイメージはでき上がっているというのであれば、もう公民館という機能を具体化するイメージは練り上げなきゃいけないんじゃないですか、段階として。なぜかという、3年間のめどでと、これは策定までの間に、最初申し上げましたように、財源確保も同時並行でいくべきですから、その時間はかかる3年間の間に財源がまだ見通しできない限り検討に入れられないということはもうあり得ないわけですから、つくるとすればどうするのかと、どんな形を、機能を具体化するのかということに入っていくべき段階だと思いますので、そこにちょっと入らせていただきます。

そうすると、公民館の中に、今、湯布院には図書館があの中に入っているわけです。分館です。ところが、公民館というのは、図書を整備、用意しなきゃいけないのは当然なんです。活動に対する図書館、図書室でもいいんですけども。図書を準備して活動に供するというのが責務になっていますから。

それで、かつての——これは言葉悪いんですけども、田舎の公民館は図書館じゃなくて図書室があるのが当たり前だと。ところがだんだん町が大きくなったりこういう合併があつたりすると、じゃ、図書館を建設する、合併で大きくなったら図書館が必要だと。いや、あるじゃないか。図書室をちっと大きくすればいいんだというふうに、言葉は悪いです。おためごかしでつくったことにしちゃったという経緯はあると思う、いろんな自治体が。まさに由布市の場合も、未来館、もうこれは大きな公民館機能を持っています。社会教育施設。その中に図書館があるわけです。じゃ、本来の公民館の中に、公民館活動に供するための図書類はどこに置いているのかというふうになると、こっちの図書館でもう大体というか、こっちのほうが大きいんですから、こっちにあるじゃないかというふうに峻別はしておりません、どこも。

しかし、図書というものが持っている機能は、公民館活動だけじゃなくて、いろんな分野の活字メディアで子どもたち、もちろん高齢者も含めて、文化の面の思考回路を立脚させる大きな触発材です、ものです。本を通して知恵がつくと、本を通して情報が入る。これはデジタルではできない、アナログであればこそできるすごい機能が本にはあるわけです。同じ文章であっても、どのようにその場面をイメージするのかは各人各様全部違いますから、そこに個性が、そして独自性ゆえの新しい発見が出てくると。活字をもってして変えがたい能力開発要素はないといっても過言じゃないと思うんです。それだけ図書館というのは必要です。

その図書館がいつの間にか公民館図書室をちっと大きくした形で独立の建物でもなく存在させられてきたのが現実です。しかし、本来であれば、そういう図書館機能を持った場所では、にぎやかさはなく静かで、そして沈思黙考できるような環境の整備も要求されていますし実現しな

きやいけない。ざわざわしてもだめ、音が聞こえてもだめ、静かに個別のエリアを用意するぐらいの場所で、静かに情報を、自分の文化度を熟成させていく、そういう場所を用意しなきゃいけないわけです。

でも、公民館につくりますと、公民館の役割は何かというと、にぎやかというのはおかしいんですけども、活動の拠点です。活動というのは当然音も出ますし、ざわつきますし、にぎやかであれば、活発だな、この公民館はとなるんですけども、そのすぐ横っちょに図書室、図書館、分館とか呼べるものがあるって、そこでは、静かにしなきゃいけない義務があるわけです。これを今一緒にしているんです。あればいいだろうというもんじゃないと思います。分離独立させて、図書館は図書館だよ。金がないったらそこで終わるんですけども。でもつくるべきです。これは次の代を担う子どもたちの能力開発に対して責任を持つという意味では、図書館というのは極めて重要な意味を持っているわけです。図書の大切さ、書物の。本を開くとあるじゃないですか。新しい本、新刊本やと私なんかはすぐ、いきなりにおいを嗅いじゃうんですけど、インクのおいを。で、新しい本を買ったんだな、もらったんだなと思って、そこから読みに入る。居ずまいを正すのは昔の人の所見でしょうけれども。それで自分のスピードで読み込んでいく。で読みこなしていく。で、血となり肉となりじゃないですけども、自分の財になっていく。それを公共の保障でやるのが図書館だと思っています。

なら、こういう考え方でいけば、今の未来館も一緒くたになった施設の1つです。私から見れば。今度は、庄内、そして湯布院でそういうものをつくるということになれば、これは一緒くたにしないほうがいいと思う。分離して考える。これが次の世代はそれによって育つという前提がありますから、保障してあげる、こういう発想を我々世代が持つべき時代じゃないでしょうか。デジタルになっているからこそアナログな活字文化というやつの大事さを行政が再確認して、じゃそれを実現させるためにどうする形が一番いいんだろうというふうに額に汗を流していただきたいんです。考えていただきたいんです。その構想をもって次の段階の、先ほど、市民の代表の方とか、あるいは議会でも構いませんけれども、イメージを出していただいて、どうだいという投げかけはぜひともやっていただきたいんです。できますか、具体的に。イメージ。

○議長（生野 征平君） 総務部長。

○総務部長（佐藤 式男君） 総務部長です。私も古い人間で、溝口議員のおっしゃるとおりアナログのほうが大好きな人間です。今議員の言った意見は参考にさせていただきたいと思います。

○議長（生野 征平君） 溝口泰章君。

○議員（11番 溝口 泰章君） ぜひお願いいたしたいと思います。2人で、老後、図書館で会いましょう。

これがほんと子どもたちのことを考えますと、私はもうぜひにやっていってもらわなきゃいけ

ないことだと思えます。また、質問の中でも先ほど申し上げましたように、大きな2項目用意していますけれども、それはつながってきて、くるようになります。公民館活動というところでは、

この図書室が図書館として間違っただけで、すり違えられて今存在しているということは御理解いただきましたけれども、今後の具体的な活動の中で、公民館というものの活動の中で、今度は、今、例えば、子どもたちの放課後児童クラブなり、あるいは老人のさまざまなお謡いの、あるいは書の、絵画の、手づくりのいろんなサークルなりを、公民館を活用して行っているわけですが、この公民館活動の中の年齢層の、子どもたち向けの公民館活動とリタイア層を中心にした大人たちの公民館活動とはきれいに分化、分割されているように私には思えてならないんですけれども、次長の感想はどうですか。

○議長（生野 征平君） 教育次長。

○教育次長（森山 泰邦君） お答えいたします。教育次長です。

確かに教室の構成といたしましては子ども向け教室、それから成人、高齢者向け教室というふうに分化されているかと思えます。そうした中で、子ども向け教室に対して、先ほどお答えいたしましたように、団塊の世代や高齢者の方々の参加協力をいただくように努めているところでございます。

以上です。

○議長（生野 征平君） 溝口泰章君。

○議員（11番 溝口 泰章君） 具体的に、年齢層ごとに用意するのは仕方ないと思うんです。用意したものの中に、子どもたちの、放課後児童クラブがあるとすれば、その中に、とのとき来ているリタイア層が入っていった指導者になるというシステムをとというのが今回の質問の中に入っております。

学校教育の中で地域の高齢者——高齢者というちゃいけないですね、リタイア層に手伝ってもらって、学習指導も行ってもらおうというような方策は練っておられるのは確かです。しかし、これは学校教育の中に教育者以外の方の、常勤じゃないですけれども、手伝いを常態化する、常にあるような形に持っていくのは非常に難しいと思うんです。学校教育の中に取り込むのは。ところが、公民館活動の中の子ども向けの活動の内容に、中年であろうが老年だろうが、大人が入っていった指導するというのもうたくさん事例があるぐらい頻繁に行われているわけです。その事例はどういうふうにして実現したとかというと、もうそういう篤志家です、子どものためになるならいいよという人が自分で自分の活動範囲を、能力を使って発揮できる場所を御自身で探して手伝っていくというのが今の形です。そこに公民館職員の方々がある程度関与なさせて、あ、あの人がいるとか、こういう子どもの活動だったらあの人に頼んだらいいかもしれん、ちょっと電話してみようという手伝ってくれたりする。というのが今のありようだと思います。それか

ら拡大することを質問の中で言っているんですけども、その点を、公民館活動の中のお年寄りパワー、リタイア者のパワー活用法について。

○議長（生野 征平君） 教育次長。

○教育次長（森山 泰邦君） 教育次長です。お答えいたします。

現在、各公民館に地域教育コーディネーターを配置いたしております、そのコーディネーターのほうで地域の情報を収集しながら、学校やまた社会教育事業の中で活用するように努めているところがございますが、まだなかなか人数的に少数の配置でございます、そうした情報収集面で課題も残されているところがございますが、そうしたコーディネーターのほうの情報がより集まりやすい、そうした環境づくりに努めていきたいと思っております。

○議長（生野 征平君） 溝口泰章君。

○議員（11番 溝口 泰章君） 努めていってもらいたいから質問しております。

実際、我々もうこの前の議員のときですか、視察で高井戸小学校に地域教育コーディネーターの紹介で、未来館にも講演に来てくださった、名前ちょっと忘れたですけども、女性のムーミンみたいな人、わかった、わからない。世田谷で高井戸小学校に連れていってもらって、何を見せてもらったかという、学校のつくりもそうなんですけど、全く仕切りのない。教室の窓というか、内側の窓です。仕切った窓がないつくりをして、広い廊下です。遊ぶときは一緒にもう遊んじゃえというふうな形で、クラス別の区分けが休み時間になると全くなくなるというふうに交流も図っていましたが、そこに子どもたちの興味に応じていろんな教室を放課後行う。まあ世田谷だからできるんですけども、いろんな電気会社というか、ソニーじゃないんですけども、メーカーのラジオのキッドがただで届いたり、それで好きな人はつくりなさいって。価値を知らせんから、幾らすとかなんとか。それを企業に頼めばいろいろ用意してくれる。人材まで。そういうお願いをするのが地域教育コーディネーターだというふうには自覚なさっていて、それで飛んで回っているんです。

それをお願いして、部屋を世田谷区役所内につくったのは区長です。オフィスつくるから、コーディネーターの。事務連絡用オフィスをつくるから、ただし活動なさるあなたたちにはお支払いできません、応援はできませんけれども、ボランティアがそうやって座る位置を、場所を、机を用意することは全くやぶさかじゃないからきちっとやりますというふうには世田谷区長が用意して一角、そんな大きくはないですけど。ボランティアの方々、自分自身の事務所もあるんですけども、区役所に用意しちゃうんです。ですから、いろんな申し込みなんか、民間の家庭の主婦たちの、こういうことをやってほしい、学校でこうやってほしいと学校にそれを申し入れるだけじゃなくて、教育委員会の部屋のそばにあるこの事務所にやってくる。ですから、直で通じやすくなって、反応が早くなって実現も早くなる。いろんな活動のプロ、プロというか、指導者

層がそこに登録されていますから、探してきますから、こういうニーズにはこう、七、八人子どもが集まってこういうことをやりたいといっているから、このレクチャーをちょっと頼むといったら、すぐに翌週にでもできるというふうな簡易化・簡便化・迅速化が進む。システムをつくっているのは長です。教育長じゃなかった。区長が。

あそこは高井戸小学校自体が民間校長だったです。民間の発想をもってやられているということではありますけれども、でも区長がきちっとそれを保障担保して、教育委員会のそばにゾーンを設けて、そこでいろいろ相談に来いと。それを実現するコーディネーターがいるんだからということばつと世田谷区中に流布するわけです。それにばつと反応して、あれだけ大きいからすぐに活動が活性化しまして、それでいろんな視察も来ているというふうなことを伺いました。

確かにそれは重要なことであり、教育長と市長が一緒になって次の世代のためにどんなことをやるか、市長や教育長自身じゃなくて、それができる我が市の人材を探そうよという方向があつてそれが可能になっているんです。市長、これはお金もかからないし、そういう組織化といえますか、仕組みを用意することは簡単じゃないですか。どうですか。

○議長（生野 征平君） 市長。

○市長（首藤 奉文君） そういう社会教育というか、OBの力を引き出して、そして子どもたちと教育をするというのは非常に素晴らしいと私は思っています。

○議長（生野 征平君） 溝口泰章君。

○議員（11番 溝口 泰章君） すばらしさを伺いたいんじゃないですかと聞いている。ただ。どうですか。

○議長（生野 征平君） 市長。

○市長（首藤 奉文君） 教育委員会としっかり協議をしながら、そういうことがやれるような状況をつくっていききたい。

○議長（生野 征平君） 溝口泰章君。

○議員（11番 溝口 泰章君） ほんとにありがとうございます。教育長、見てたらちゃんと新年互礼会でこの件は承りたいと思いますから。

それと似通ったことを済みません、前回ですか、シルバー人材センターの活用がそこでもできるんだという流れのお話をしたことがございます。よく考えると、シルバー人材との違いというのは、どうしてもノーペイかペイかという部分です。ですから、先にノーペイで済ませるピュアな奉仕精神を持っている方々のピックアップが必要だと思いますし、足りない場合にシルバーという考えじゃなくて、そこを重点施策までじゃないですね、姿勢として、そういうシルバーに行く方々とは違った意味合いで動機づけができる方々に限るという形のノーペイシステムでボランティア、これが重要になると思いますので、差別・区別ではございませんけれども、確かにそう

いうことができる方が多いんです、すごく今。団塊世代の退職にも当たっていますし、私も健全育成の湯布院の支部をお預かりしていますけれども、県の教育委員会を勤め上げた方も、保健所の方も、刑務所の所長をなさった方も、天文台の方も、何かあることがあったら手伝うよというんです。金を出さないんですよ、ああ、そんなのはいいよって。確かにそうでしょう。ああいう方々はしっかりと年金生活が保障されている方が多いですから。だからこそノーペイでいいんだというふうになってくるんです。そういう人がまた知識も技術も水準が非常に高くということになりますから、両面性を持ったすばらしい人材として、こちらが声さえかければ、ああいいよともう二つ返事の方がいますから、これはぜひ教育長経由で人材発掘のパターンを、課長も見えているけれども、課長、そういう事務仕事というか、あんた自身も多分いろんなそういう能力の高い、水準の高い技術や知識を持っている方存じていると思うんですけれども、そういう方のピックアップなどはそれこそ任しておけという感じじゃないですか。

○議長（生野 征平君） 社会教育課長。

○社会教育課長（加藤 勝美君） 社会教育課長です。

今、溝口議員からすばらしい御意見をいただきました。これからいろんな情報を取得しながら、よりよい方向で実施してまいりたいと考えております。よろしく願いいたします。

○議長（生野 征平君） 溝口泰章君。

○議員（11番 溝口 泰章君） ぜひとも社会教育、子どもの教育論、学校教育以外のところでの子どもの能力の向上、これははっきり言えば感性を磨くことにつながると思います。学校教育の中ではなかなか実現ができない部分です。なぜかというと、全体を底上げする形での教育は学校は極めて機能しますけれども、一人一人の個別の指導、感性を磨き上げる。感性というのは一人ずつ違いますから、この感性を磨くということでその子が大人になったときにはすばらしい動きが、考え方が、行動ができるんです。この感性を磨く1対1の社会教育の中に用意して、公民館を通じてぜひともこれは実現して、由布市の底上げ、知的レベルの底上げというんですか——を実現していってもらいたいと思います。

私たちは、子どもの学習環境を調べて、それで自分の人生を子どもが、人生を通じて興味を持てる対象を探し当てて、それを見つけるきっかけを用意するのは我々大人、とりわけ行政、議員もそうです。そういう人間の責任だと思います。そういうものをつくって子どもたちが動き始めたとき、我々は小さな声でもいいから、よう頑張ったな、すごいなという声をかければいいだけです。褒める。

山本五十六が言っていましたけど「やってみせ、言って聞かせてさせてみて、褒めてやらねば人は動かじ、兵は動かじ」褒めることを最後に置いて教育に当たれば、もっともっと伸びる子どもがたくさんいるということです。ピグマリオン効果ですか。教育の中の。

市長と教育長をトップとして、執行部。そのまた監視とか政策提案は我々が責務となっており
ます。ともに両輪となって、これから先の将来を託す子どもたちが最高の学習環境の中で育って
いけるよう、その準備をすべきだと思います。

きょう病気療養中の教育長のお耳にこれが届くことを念じながら、お願いして、本日の一般質
問を終えます。ありがとうございました。

○議長（生野 征平君） 以上で、11番、溝口泰章君の一般質問を終わります。

.....

○議長（生野 征平君） ここで暫時休憩します。再開は11時15分とします。

午前11時01分休憩

.....

午前11時15分再開

○議長（生野 征平君） 傍聴者の方、静かにお願いいたします。

再開します。

次に、14番、太田正美君の質問を許します。太田正美君。

○議員（14番 太田 正美君） おはようございます。14番、太田正美です。ことしもあと
20日余りを、残すこととなりましたが、湯布院のほうでは日曜日から降雪により一部積雪もあ
り、交通機関や日常生活に若干の支障が出ております。

通告に従い、一般質問を始めたいと思います。

1点目といたしまして、災害防除対策について質問いたします。

ことし7月の湯布院地区における豪雨被害を受け、岳本川の災害防除対策について、最終的に
大分川との合流点をどのようにするか等、今後のビジョンについて伺います。

2点目といたしまして、地下資源の管理運用について。本年度第1回定例議会の一般質問にお
きまして、温泉等の地下資源に関して、その保護を目的とした調査等の必要性を質問しました。
答弁では、地下資源に関して調査等の必要性があり、入湯税を充当するとの回答をいただきまし
たが、その後の進捗状況を具体的に伺いたいと思います。

3点目といたしまして、買い物弱者等の対策について質問します。

現在、過疎高齢化が進む小規模集落において、周辺に利用できる公共交通手段がなく、さらに
自分では車等を運転できないなどの理由により、日常的な買い物が困難な買い物弱者等の問題が
発生していると聞いております。由布市では、このような問題についてどう対策を考えているか。
また、そういった集落に暮らすお年寄りへの見守り等のケアはどのように考えているでしょうか。

4点目として、挾間「川の駅」の管理・利用状況について。

以前の一般質問において管理・利用状況について質問いたしました。市としては、地域の振興

に有効活用できるよう検討したいとの答弁でありました。現在、利用状況はどのようになっているのでしょうか。また、現在の利用状況に至るまでの経過について、何らかしらの検討会等を行っているか。また、そういう経緯を含めて検討内容を伺いたいと思います。

以上、4点について質問いたします。

再質問はこの席で行いたいと思いますので、明快な回答をよろしく願いいたします。

○議長（生野 征平君） 市長。

○市長（首藤 奉文君） それでは、太田正美議員の御質問にお答えいたします。

最初に、岳本川の災害防除対策についてであります。岳本川の最下流部の有料の金鱗湖駐車場から金鱗湖までの暗渠区間の改修工事を発注したところであります。岳本川全体の改修基本計画は平成19年度に策定されておまして、上流部についてはほぼ工事を完了しております。残り区間につきましては、問題点が指摘されていることから、地元の合意形成を得ながら事業推進に努めてまいりたいと考えております。

岳本川と大分川の合流点につきましては、県管理河川となっておりますから、関係機関に働きかけを行いながら、通水能力の確保を図りたいと考えております。

次に、地下資源の管理運用についてであります。現在、策定中の由布市環境基本条例で、温泉資源についての規定を盛り込む予定でございます。また、この条例に基づく由布市環境基本計画で適正な活用と保全を図るための必要な措置について検討してまいりたいと考えております。

次に、過疎高齢化の進む小規模集落の買い物弱者等の対策でございますが、現在、由布市では、大分県と連携をして、高齢化率が50%以上の地域に対して、集落の維持・活性化に向けたさまざまな支援事業を実施しております。モデル地区として、湯布院町奥江地区では、県事業である小規模集落応援隊事業、小規模集落の暮らし事業を実施するとともに、集落に実際に居住していただき、地域の日常のさまざまな活動支援を行う「田舎で暮らし隊事業」を市事業として実施しているところであります。

市内の小規模集落は、現在14地区ございますが、これらの支援事業の実施につきましては、あくまでも地元自治区の意向や自主性を重視した上で事業選択をしていただくものでございまして、安心して集落に住み続けられるよう、無理なく継続できる仕組みづくりを目指すためのものがございます。したがって、年度当初に県や市のさまざまな事業を対象地域の地区役員に紹介をいたしまして、年度途中でありましても随時相談をさせていただいております。

小規模集落を対象とした買い物弱者に対する大分県の支援事業がありまして、周知は行っておりますが、事業の相談や問い合わせ等は来ておりません。

また、ひとり暮らし高齢者については、日常生活の安定と孤独感の解消などのために、地域の気持ちがつながることが大事だと考えております。そこで、老人クラブ会員が定期的に訪問を行

う「高齢者見守り支援事業」を実施するとともに、民生児童委員さんにも高齢者世帯の見回りや安否確認の活動をしていただいております。

次に、挟間「川の駅」の利用状況についてであります。平成22年6月にそば食堂と喫茶が撤退して以降、「川の駅」は閉鎖をしておりました。平成23年11月に、提子井路土地改良区の事務所が県道龍原挟間改良事業に伴って立ち退きになることから、仮事務所として使用したい旨の申請書が提出されました。県道の改良に伴う立ち退きであることや、提子井路への「川の駅」公園内の公衆トイレの浄化槽放流を従前より無償で行わせていただいていることなどを考慮して、無償での使用を許可しております。

なお、跡地利用についての検討会等は開催しておりません。

以上でございます。

○議長（生野 征平君） 太田正美君。

○議員（14番 太田 正美君） では、再質問に入らせていただきます。

平成17年、19年と、さらに本年の7月の土石流災害と、これまで何回もこの岳本川は被災を受けております。それで、災害後の対策について、多くの対策がなされているとは思いますが、どちらもつけ焼き刃的な施策でしかなく、抜本的な問題解決になっていないと私は考えております。

幸いにも、これまでの災害で人災がなかったというのがせめてラッキーだったのではないかと思います。これからは限りません。先ほど市長が、19年に抜本的な災害対策の策定が、計画がなされたという話ですが、岳本川1号路、2号路と区別して、もう1号路は既に完成をして今回の災害時点でも何ら支障なく放流ができたということなんですが、2号路は特に県道216号線から下の河川の流路については全く進んでない状態で、今回、災害の復旧工事として若干工事が出ましたけれども、何らその点については問題の解決にはならないというふうに考えていますが、何で完成に至らないのか、その経緯を含めて問題があるというのが、大分川の断面が足りないからというだけでこのずっとそういう問題解決するのに努力してないんじゃないかというふうに私思うんですが、担当課としてどのように、その辺の県との交渉並びにその計画が何で進んでないのか。今度の地域防災計画にもありますように、起こり得る想定に対して着実にハード及びソフト対策を進めることが重要であるとうたっているにもかかわらず、この5年間、全くそこから進んでいない。それでいてなおかつ地域住民にその辺のこともよく説明していないというのはどういうことなんでしょうか。

○議長（生野 征平君） 建設課長。

○建設課長（麻生 宗俊君） 建設課長でございます。お答えいたします。

過去17年、18年、19年と、ことしと災害が発生をしております。上流部につきましては、

平成19年度の始めにおきまして工事が完了したわけですが、それから下流、県道別府湯布院線から金鱗湖に至る約600メートル程度ですが、それにつきましては、議員申されますように、大分川との計画流量との調整が整っていないというのが大きな問題でございます。

また、排水路上に家屋が2軒ございまして、その移転にも多大な費用を要する。いずれにいたしましても、何らかの事業計画をもって行わないと財源的にも困難な面がございます。移転補償につきまして、過去にも、今の私のほうの法定外公共物、岳本川につきましては、平成16年度以降に引き受けをしております。それ以前は大分土木事務所でございます。それで、その後、大分土木事務所と建設課のほうで家屋の所有者等とも話をしましてまいりましたが、まだ結論には至っておりません。

今後の問題でございますけど、排水路、河川というのは下流からやるのが基本でございます。まず、大分川との流量の調整をどうするのかというのが一番大きいと思います。私のほうといたしましては、現計画の見直しもう不可欠でございますので、来年度の当初に調査設計の見直しを行いまして、どうしたら大分県との合意が整うかという計画に要する予算を計上して確保したいと考えております。

以上でございます。

○議長（生野 征平君） 太田正美君。

○議員（14番 太田 正美君） 既に19年度予算に計画策定のかなりの費用を使ってこれ計画書ができていると思うんです。それを全く、どの財源を使ったのかちょっと定かじゃないんですが、それを新たにまた計画変更するとか、そういう答えでは、ちょっと納得できないんです。

12月6日に岳本川周辺の住民に向けて建設課の地元説明会がありました。多くの住民から市の対応について非難の声が上がりました。私たちはそんなことを待っているんじゃないんだと。やはり地元住民は、県道から下の、特に今回、土石流で災害に遭われた方々が、この問題をどう解決してくれるんだというのが一番大きな声です。

今回の12月6日の説明会でも、市と建設課とその辺の具体的な協議が持てるものと、皆さんそういうふうに思って参加されたのが、実際には今度の2,000万円の改修工事の説明会で、既にもうそのことも業者が決まっておって、ただ一方的に市からの説明を受けるだけと、そういうことになっているわけです。だから、もっとそうじゃなくて、その計画が何でできないのか、先ほど3カ所の、河川上に家屋があるというような説明を受けましたが、実際にはその方たちも何らそういう打診、移転等の打診を話がないというような話も出ております。だから、もっと詰めた話をしないと、最終的に今の課長の話では、大分県がいかにも悪いような言い方を受け取るんです、住民としては。再度質問しますが、その辺についてお尋ねします。

○議長（生野 征平君） 建設課長。

○建設課長（麻生 宗俊君） お答えいたします。

19年度に計画を策定したというのが、大分川に放流する河川協議書でございます。この岳本川の改修につきましては、5年に1度考えられる1時間の降雨量に基づきまして流量を算定しております。この基準がございますので、その流量が大分川に入って大分川が流下できるかというのがオーケーであればできるんですが、その大分川が何しろ断面が小さく勾配がないものですから、今の計画で放流するのがもう協議が整わないと考えております。

○議長（生野 征平君） 太田正美君。

○議員（14番 太田 正美君） もういいです。

課長の答弁からすると、大分川が広くせんと岳本川はできないという、そういうふうな結論になるというふうな、いや、そういうふうには受け取れるんです。だから、そうじゃなくて、やはり地域住民としては、現実にこの3回も被災を受けて、その問題をどうしてくれるんだというのは、もっと明快なビジョンを示してほしいというのが切実な希望ですよ。その説明がなくて、ただただ大分川の断面が足りないからと、特に湯布院地域では、年間降雨量が2,000ミリということですが、最近の雨量は1時間に100ミリを超えるような雨が降っているわけです。そうするともう、それが二、三時間で圧倒的にもうその流量をオーバーするわけです、計画よりも。そうするともう、大分川というか、そういう県の川そのものも断面が足りないというようなことになってしまうので、そうじゃなくて、やはり住民、市民の生命・財産をいかに効率よく守るんだというような、そういうハードの考え方に立たないと、来年のまた梅雨にも同じような被災を受けたときに、行政としては不作為ではないかと。市長、その辺については、市長のやる気がないんじゃないかと問われているんじゃないかと思いますが、お答え願います。

○議長（生野 征平君） 市長。

○市長（首藤 奉文君） 市としては、そういう災害が起きないのが一番願うところでありまして、私もこの3回の経験を見てきました。だから、できるだけそういう災害が発生しないような状況、環境づくりを、建設課を中心にしながらつくっていきたくたいと。それは県との十分協議が必要でありますし、ないがしろにとかいうことではありません。ほんとに誠心誠意、地域の住民の皆さんのために取り組むべきであるというふうに私も決意をしております。

○議長（生野 征平君） 太田正美君。

○議員（14番 太田 正美君） さらに言えば、床下浸水や土砂災害を受けた住民から、これまでも写真等を含めて自分たちの意見を随分述べています。しかし、その声が市建設課に届いていないんじゃないかというような、憤りに似た意見がたくさん出ていますが、その辺についての住民の声を市が把握しているのか。また、把握しているとすれば、特に来年度予算に、ただ設計の

計画変更の予算だけを計上するという今の課長のお答えなのか、それとも、もっと具体的にそういう河川上にある家屋等の移転交渉も含めて予算を計上するのか、お尋ねします。

○議長（生野 征平君） 建設課長。

○建設課長（麻生 宗俊君） お答えいたします。

私、先ほどお答えしたんですが、少し言葉が足りない面がございました。というのが、見直しというのが、今は1カ所に集中して流すように計画をしております。後は分流とかそういうのも考えていかないと、今の協議はちょっと難しいというのが私の先ほど言いたかった意見でございます。あの後、調査設計費のみでなく、もう事業費的なことでございますけど、まず調査設計を行って、可能性が見出した時点で事業計画とか決まって予算等もつけていかなければならない。もちろん、家屋等の補償もございますので、計画を調べて事業費を決定させて、具体的な実施を考えていくのがいいのかなと考えております。

○議長（生野 征平君） 太田正美君。

○議員（14番 太田 正美君） 今回の被災の大きな原因は、由布岳の崩落というような想定外のことであったかもしれませんが、現実にも今、ちょっとした、1時間ぐらいの夕立の雨でも災害に今はつながっております。そういうことを考えると、大分川までの最終的な計画を立てることも重要ですが、まず工事期間を分割して、例えば今岳本前徳野線の下の暗渠が非常に狭く、従来からの暗渠で、なおかつそこに家屋があるということで、そういう部分的なことからも早目にそこだけでも改修工事ができないのか。そこだけでも、そこがある程度解決すると、その近所の住宅に土砂が流れ込むということが随分違ってくるんじゃないかと思いますが、そのような検討はできないのかどうか。全部まず計画をつくってじゃないと物が進まないのか。その辺、課長、どうお考えですか。

○議長（生野 征平君） 建設課長。

○建設課長（麻生 宗俊君） 部分的なことも考えられるとは思いますが、補助金等を使う場合には全体計画が原則かな。財源の問題になろうかと思えます。また、あと例えば補償する場合でございますけれども、所得等の税金のことも考えられますので、何らかの事業に乗せないとちょっと難しいのかなと考えております。

○議長（生野 征平君） 太田正美君。

○議員（14番 太田 正美君） 市長、市長の責務として、やっぱり住民の生命・財産を守るのが第一じゃないんですか。既にもう3回もこれだけ被災をしていることがあって、そのような生ぬるいことで、まだ計画が計画がと、予算が予算がと、もしこれで人災にこれにつながったら市長はどうするんですか。ですから、やはり部分的でも問題箇所は何らかして、早急に解決するという、そういう意思を示さんと住民は納得せんのじゃないですか。市長、お答えを願

います。

○議長（生野 征平君） 市長。

○市長（首藤 奉文君） 危険を除くためにも、いろんな形で積極的に取り組んでまいりたいというふうに考えております。

○議長（生野 征平君） 太田正美君。

○議員（14番 太田 正美君） それは来年度予算にちゃんと反映するというお答えでしょうか。

○議長（生野 征平君） 市長。

○市長（首藤 奉文君） どういう状況であるかというのをもう少し検討しながら、できればそういう状況も考えていきたいと。

○議長（生野 征平君） 太田正美君。

○議員（14番 太田 正美君） じゃ、先ほど住民からの声というのは市長のほうに届いとらんのやろか。写真もつけて、奴留場の公民館で説明会があったときに、かなり強く言われましたけど、その辺のことも十分考慮の上、対策をお願いしたいと思います。

次に、地下資源の活用については、地域や資源の形態、また利用状況がそれぞれいろいろパターンによって違うと思いますが、ある意味では、地下資源というのは市民の共有の財産ではないかと思います。そういった中で、乱開発を防ぐためにも、市長は規制の強化と規制の緩和、その辺のことをどういうふうに検討し、また条例等の整備をどうしたいと思っているのか伺いたいと思います。

○議長（生野 征平君） 市長。

○市長（首藤 奉文君） 先ほど申し上げましたように、由布市の環境基本条例で、由布市温泉支援の規定をしっかりと盛り込んでまいりたいと。その中で規制をかけていきたいというふうに考えております。

○議長（生野 征平君） 太田正美君。

○議員（14番 太田 正美君） 前回の質問したときも、温泉と同時に地下資源ということでお尋ねしました。当然、そこには温泉以外の水も含まれると思うんです。そのようなことが今、どちらかという届け出もないというような状況ですので、その辺まで含めた調査等、前回そのことを、入湯税を使って調査をしたいということがあったんですが、環境課、その辺は進捗状況はいかがですか。

○議長（生野 征平君） 環境課長。

○環境課長（生野 重雄君） 環境課長です。お答えいたします。

まず、温泉の泉源の調査の件なんですけど、前回も少し触れましたが、市役所のほうで、うちの職員が直営で、毎月1回、3カ所行っております。そのデータについても、ただはかるという

だけじゃなくて、大分県温泉監査調査委員会に送っております。その温泉調査委員会におきましてはずっと経年のグラフをつくっております。昨年、毎年グラフはくれるんですけど、特にその考察はしていませんが、ただし平成23年の3月に、湯布院のクアージュのほうで、「豊かな温泉資源を未来に継承する湯布院地域懇談会」というのが開催されております。そのときの資料の中で、調査委員会の方で、湯布院の温泉資源の状況について考察がなされております。

簡単に読みますと……。 （「もういいです」と呼ぶ者あり） よろしいですか。失礼します。

以上です。

○議長（生野 征平君） 太田正美君。

○議員（14番 太田 正美君） 温泉のほうは保健所と一緒に、その辺の管理等を行っていただきたいと思いますが、もう既に温泉に関しては湯布院地域でももう乱開発状態になんです。だから、もう極端に言えば、どこももう掘る場所がないぐらいに、もうほとんどのところに掘っているというような状態。

ただ、水に関しては野放し状態というのがあります。それで、こないだの、前回の質問でも、課長は、そういう、私の答弁に、ありませんというようなお答えをしたと思うんですが、口径の大きなところは、申請が。その辺には、その後若干、何かその辺、返答に変化はありませんか。

○議長（生野 征平君） 環境課長。

○環境課長（生野 重雄君） 地下水の掘削について、環境課のほうで規定があるかというのは、前回お答えしたと思うんですけど、実質的には地下水の掘削については、都市・景観課の「潤いのある町づくり条例」の中での規定はありますが、環境課のほうの条例の規定の中ではありません。その辺も含めて、今度の環境基本条例、その後の環境基本計画の中で、既存の条例とは別の検討していく必要があるかなと思っております。

以上です。

○議長（生野 征平君） 太田正美君。

○議員（14番 太田 正美君） その辺も含めた条例を新たにつくる、検討するということではないのでしょうか。

○議長（生野 征平君） 環境課長。

○環境課長（生野 重雄君） ことしに関してはまず環境基本条例、まだ今委員会の原案ができたばかりで、来週ですけど、各3地域で市民説明会及び今週から1カ月間のパブリックコメントをいただく予定です。

そういう中で、この条例を認めていただくといいですか、固まって次の委員会に、定例会に出せる状況になりましたらその条例が決まってくると。その条例の中で環境基本計画を策定するということになっております。その環境基本計画の中で具体的に基本条例にのっとりました理念的

なものを具体的に検討していく必要があると考えております。

以上です。

○議長（生野 征平君） 太田正美君。

○議員（14番 太田 正美君） じゃ、来年に引き続き、きめの細かい対策を打っていただきたいと思います。

次に、買い物弱者についてですが、市内において買い物弱者と思われる方がどのくらいおられるかというような把握をされているのか。とりあえずそれをお聞きします。

○議長（生野 征平君） 総合政策課長。

○総合政策課長（溝口 隆信君） 総合政策課長です。お答えいたします。

現在、買い物弱者については、調査は行ってございません。声も今のところ、市のほうには届いてございません。

以上でございます。

○議長（生野 征平君） 太田正美君。

○議員（14番 太田 正美君） 声が届いてないからないということではないと思うんですが、例えば、昔から富山の置き薬というのがあります。意外と今、その業者が結構急発展しているという、ある意味では病院に行かなくても、ある程度ちょっとした風邪ぐらいならそういう置き薬でも代用ができると、そういうので、富山の置き薬というのは、昔から先用小売りと言って、要するに、先に使って、お代は1年後に、次に来たときに使っただけ払っていただくというようなシステムになっておるようです。ただ、1年に1回ぐらいしか来ないので、なかなかそういう買い物弱者の対策にはつながらないと思うんですが、今、ちょっと田舎に行くと、生鮮食料品、野菜とか魚とかを移動販売で売っておられる方がおります。その辺の状態というですか、そういう移動販売車の実態についてはどの課か、何かそういうつかんでいるんでしょうか。

○議長（生野 征平君） 総合政策課長。

○総合政策課長（溝口 隆信君） お答えいたします。

実態調査とまではいってないんですけれども、私どもの課が調査いたしたところ、庄内の阿蘇野地域に商店がございますけれども、その商店については、阿蘇野地域のみ移動販売を行っておるところでございます。それから、バリューの庄内店がございますけれども、ここについては、一応個人の予約制でございますけれども、火曜日と金曜日、庄内地域に、手数料をいただいて予約をいただいた方には個人販売をしていると、配達をしているということです。

それから、挾間地域については、セブンイレブンが庁舎の向こうにございますけれども、この挾間店、ここが正午と午後7時の2回に分けて、500円以上を購入予約された方には配達をします。ただし、ここは店舗から半径1キロ以内ということで配達をやっているというふうな状

況です。

それから、市内の全域については、生協、いわゆるコープがございますけれども、これは特定地域の訪問販売ということでございますけれども、これは事前に会員にならないとそういったサービスが受けられませんけれども、一応これ全地域に、ただし、班編成という形になりますので個人宅には行きませんが、一定の班の中心部の地域には行くというふうなことでございます。

以上、4つ、庄内地域、挾間地域、それから市内全域について、こういったことが現在行われていると。ただし、ひとり住まいの老人の方が非常に困っているというふうなことは、今のところ声として届いてございません。ただし、塚原地域や幸野地域については、今コミュニティーの事業で入っておりますけれども、そういった買い物の施設が欲しいというふうな声は届いてございます。

以上でございます。

○議長（生野 征平君） 太田正美君。

○議員（14番 太田 正美君） 1つ、その辺の移動販売車は、許可等は無届けとか、何も要らないんですかね。

○議長（生野 征平君） 総合政策課長。

○総合政策課長（溝口 隆信君） 総合政策課長です。許可権限は、私ちょっと詳しくは存じ上げませんが、いわゆる昔の酒屋さんがこれまで地域に週2回出ていっているということでございますので、許可等はわかりません。全体は、多分要るだろうと思っておりますけれども、その辺ちょっと詳しくわかりません。

○議長（生野 征平君） 太田正美君。

○議員（14番 太田 正美君） ほかの商工観光課とかは全然その辺の許可権限等は何も関係ないですか。移動販売はもう勝手に売って、要するに鮮魚等。

○議長（生野 征平君） 環境商工観光部長。

○環境商工観光部長（相馬 尊重君） お答えします。

具体的にどういう法律でということをお答えできませんけれども、多分鮮魚等であればその販売車で加工するような場合は、保健所等の許可は必要だというふうに思っています。

○議長（生野 征平君） 太田正美君。

○議員（14番 太田 正美君） 先ほど市長の答弁で、行政がいろいろ施策を14地区に支援事業等を行っているということなんですが、私としては、行政にもやはりできる限界があるということなんで、実はそういうふうな民間の業者とタイアップして、地域のそういう見守りみたいなことができないのかなというのが1つは私の考えで、そういうことも考えて。

それと、去年私経験で、コープ大分の人が宅配に行って、たまたまその家が不在で、病院に行っていて不在だったんです。で何となくこげくさいから、何かおかしいなと思って玄関をあけてみたらもう煙だらけで、ぼやに近い状態で、消防車までは呼ぶことはなかったんですが、その人がちょっとやけどをしたぐらいで消しとめたんですけど、そういうことと、特に今、独居老人の方が年々多くなっています。やはりそんなことも含めて、見守り等、先ほどの市長の答弁では、老人クラブが主に行っているということなんですが、具体的にはどのような活動をしているのか、またその活動がちゃんと行政に報告なりが上がっているのかどうかをお尋ねしたいと思いますが。

○議長（生野 征平君） 福祉対策課長。

○福祉対策課長（衛藤 哲雄君） 福祉対策課長です。お答えいたします。

老人クラブの見守り支援事業についてということになるかと思いますが、具体的な活動につきましては、その地域で週1回を原則として、2人以上で独居の方なりを訪問するというのが基本的な形になります。それから、年間の報告につきましては、年2回、10月と4月に社協の事務局を通して私どものほうに報告をいただいているという状況でございます。

以上です。

○議長（生野 征平君） 太田正美君。

○議員（14番 太田 正美君） その対象となられる方はやはり65歳以上の方を指すのでしょうか、独居老人とは。

○議長（生野 征平君） 福祉対策課長。

○福祉対策課長（衛藤 哲雄君） 高齢者の施策でございますので、高齢者が65歳以上というニュアンスがありますので、そういうふうに捉えております。

以上です。

○議長（生野 征平君） 太田正美君。

○議員（14番 太田 正美君） 年でくくって、例えば体調等を壊し60から65の間の方が退職して、仕事も行かなくて家にいてというようなことで、どちらかという、その間の方が非常に亡くなっているけれども誰も気がつかないとか、そういうことが湯布院でもありました。その辺のことも法律では難しいかもしれませんが、やはり地域としてどうやって見守りをするのかというのは、若いとか年寄りとか関係なく、地域全体をそういうふうなカバーしていくというふうなお考えはないでしょうか。

○議長（生野 征平君） 福祉対策課長。

○福祉対策課長（衛藤 哲雄君） お答えいたします。

高齢者ということではなくて、それまでの世代の方についてもということであると思いますが、その辺につきましてはそれぞれ市内に主任児童委員さん含め92名の民生児童委員さんがいらっ

しゃいます。それぞれ幾つかの地域を担当しております。民生委員さんにつきましては高齢者だけではなくてその地域のいろんな事情にある方の情報も持っていらしゃいます。それをもとにふだんの活動もいただいておりますし、その辺、今後も民生委員さんと連携をとりながら取り組みを進めてまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（生野 征平君） 太田正美君。

○議員（14番 太田 正美君） 今、市内で、子どもたちのことを見守る防犯パトロールみたいなものが一方ではあります。それともう少しタイアップしたような、若者と老人とあわせたパトロールを何かできないのか、そういうことが考えられないのかというのを思うんですが、誰か担当課、政策課でもいいです。せっかくそういう活動をされている方が、もう少し自分のエリアを——同じエリアでしょうけど、対象を変えるだけで両方の機能が補完されるんではないかと思うんですが、いかがでしょうか。

○議長（生野 征平君） 総合政策課長。

○総合政策課長（溝口 隆信君） 総合政策課長です。お答えいたします。

本来であれば、防災安全課が答えるところなんでございますけれども、今おっしゃられた防犯については、そういったこともできるだろうというふうに思っております。それらも含めて、医療や福祉、防犯、防災対策を含めたものを地域の皆さんが御理解をさせていただくというふうなことが一番、把握するということが一番大事だろうというふうに思っておりますので、私どもの小規模集落対策もそうなんですけれども、地域のコミュニティー事業をやっておりますけれども、その中でそういった取り組みを皆さんが計画をつくる段階で御理解をいただけて周知をしていくというふうなことが大事だろうと思っておりますので、防犯についても、それらも網羅したところで、可能性はあるというふうに思っております。

○議長（生野 征平君） 太田正美君。

○議員（14番 太田 正美君） ぜひ検討していただきたいと思います。

今、よく地域活性化という言葉が使われておるんですが、やっぱりそういう小規模集落とかのニーズをもっと深く探って、今何がなんだということを把握した上で、十分これは経済的にも、ある意味ではペイすることだと思ってるんで、行政だけが何かをしなきゃいけないじゃなくて、官民一体でその辺のケアとか生活支援をすれば、当然経済対策にもなって地域が活性するんじゃないかと思っておりますので、今後ともその辺の対策については深く検討していただきたいと思います。

次に、「川の駅」ですが、前回の質問から何も検討委員会等立ち上げて検討してないというお答えだったんですが、何で一般質問の答えができてないのか、とりあえずそれをお尋ねします。

○議長（生野 征平君） 農政課長。

○農政課長（平松 康典君） 農政課長です。お答えいたします。

なぜ検討委員会を設置しなかったのかという御質問だろうと思うんですが、提子井路土地改良区よりの使用理由が県道改良に伴うことや、浄化槽放流の使用料免除をさせていただいていることなどを考慮して、決裁伺で処理をさせていただいたというようなことでございます。

以上です。

○議長（生野 征平君） 太田正美君。

○議員（14番 太田 正美君） この提子井路が事務所が新しく完成した折には、提子井路はここから撤退していくんでしょう。そうすると、その後の空き家になったものは当然検討しなきゃいけないんですが、その計画は全然考えてないんですか。

○議長（生野 征平君） 農政課長。

○農政課長（平松 康典君） お答えいたします。

今後の活用方法は、農業振興の拠点施設や交流の場として活用を検討していきたいというように考えております。

以上です。

○議長（生野 征平君） 太田正美君。

○議員（14番 太田 正美君） それは、具体的には何か案があるんですか。それとも、言葉だけの検討するということなんでしょうか。具体策があるんですか。

○議長（生野 征平君） 農政課長。

○農政課長（平松 康典君） お答えいたします。

今後の活用方法ですが、現在のところ、「川の駅」が条例を制定されておられません。それで、行政財産としての位置づけを検討しながら、そういうところを検討していきたいというふうを考えております。

以上です。

○議長（生野 征平君） 太田正美君。

○議員（14番 太田 正美君） 先日の田中議員の質問に、挾間地域に農産業加工センターの設置が早急に望まれるというような意見がありましたが、その中から、今、中間支援組織として由布市はゆふポタジェを今立ち上げております。このゆふポタジェはどこか拠点を持っているんでしょうか。

○議長（生野 征平君） 農政課長。

○農政課長（平松 康典君） お答えいたします。ゆふポタジェの事務所がどこにあるかというのは承知をしておりますが、まだきちっとした事務所はないのではなかろうかというふうに思っております。

以上です。

○議長（生野 征平君） 太田正美君。

○議員（14番 太田 正美君） 今、挾間地域には陣屋市場がありまして、比較的そこに挾間の農家の方はたくさん品物が出ていると思うんですが、由布市内とするとなかなか、庄内、湯布院の方が、もともと農協の会員からの立ち上げであったかと思うんですが、なかなかそこには出品をしづらい。とすると、やはりこの中間支援組織がその辺の、由布市全体の農産物の仲介をするというようなことで検討は、来年度以降、特に事業が廃止になった後の策としては考えられないかというのをちょっとお尋ねしたいんですが。

○議長（生野 征平君） 農政課長。

○農政課長（平松 康典君） お答えいたします。

先ほども申し上げましたが、農業振興の拠点施設や交流の場として検討していきたいというふうに考えております。

○議長（生野 征平君） 太田正美君。

○議員（14番 太田 正美君） ついでに、ゆふポタジェは今、東庄内小学校の調理室をお借りして加工品の製造というか、そういうのをなんかやっているようなんです。給食センターができたことで、庄内にあった各小学校の給食施設が不要になったということでそれをお借りしているんでしょうけど、これにかわる拠点として提子井路事務所が完成後、また何かその辺の、由布市全体としての農産物の加工センターなりをぜひ検討していただきたいと思いますが、可能でしょうか。

○議長（生野 征平君） 農政課長。

○農政課長（平松 康典君） そういう方向で検討していきたいというふうに思います。

以上です。

○議長（生野 征平君） 太田正美君。

○議員（14番 太田 正美君） ぜひよろしくをお願いします。

以上にわたり、私の一般質問を終わりたいと思います。どうもありがとうございました。（拍手）

○議長（生野 征平君） 以上で、14番、太田正美君の一般質問を終わります。

.....

○議長（生野 征平君） ここで暫時休憩します。再開は13時とします。

午後0時09分休憩

.....

午後1時00分再開

○議長（生野 征平君） 再開します。

次に、8番、新井一徳君の質問を許します。新井一徳君。（拍手）

○議員（8番 新井 一徳君） お疲れさまです。ただいま議長の許可を得ましたので、一般質問に入りたいと思いますけれども、今、始まる前に、皆さんからの要望のあったように、議会中継のあり方、カメラの位置とか、ぐるっと1回回したり、いろんな形で、変えたりしてやってみてほしいと思います。

それでは、1問目からいきます。

大きな1点目として、農業農村整備事業の現状と展望について。

現在、農業をめぐる情勢は、高齢化、過疎化の進行、所得の減少等非常に厳しい状況があり、先行きが不透明な中で、食料自給率40%足らずと低迷しています。大分県では、農業農村整備長期計画、大分農業農村整備推進プラン、もうかる農業の実現と環境に配慮した元気で魅力あふれる農業農村を目指しています。

そこで、農業基盤整備事業は農業の作業効率を維持するためにも必要であります。由布市では、平成22年から庄内町で中山間地域総合整備事業で整備を進めてきています。今後、挾間町では、農業振興総合整備事業での計画があるようですが、農業農村整備事業にはまだいろんな事業があります。農地・水環境保全向上対策とあわせた農業振興はもとより、豊かな自然環境や景観保全、治水等の多面的機能を維持する観点から質問いたします。

まず小さい1点目として、由布市の農業農村整備事業の概要と、小さい2番目で、進捗状況と今後の計画と課題であります。

大きな2番目として、由布市のインフラ整備について。

まず1点目は、由布市の水道計画についてであります。由布市水道ビジョンでは、おおむね半世紀後の水道の将来像を念頭に具体的な方針を示し、今後10年程度で実施する整備内容を明確にしているとありますが、基本計画なので具体的などころがわかりません。

小さい1点目で、簡易水道統合整備計画について、2番目に適正な料金体系の設定について取り組みをお伺いします。

2番目として、情報通信インフラについてです。今や社会生活を営むに当たって、情報通信も欠かせないインフラの1つになっております。しかし、地理的な特性から、山間部など一部の地域において高速インターネットサービスが利用できないことから、さらなる拡大を求める市民の声が寄せられております。地域の魅力を低下させ、過疎化の原因の1つともなっており、今や企業も光通信じゃないと進出してきません。情報格差の状況をどのように把握しているか。またその対応はどのように行っているか。2番目として、光ファイバー網などの整備の進捗状況と今後の施策について。3番目に、県内他市との整備状況の比較についてお聞きしたいと思います。

再質問はこの場でさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○議長（生野 征平君） 市長。

○市長（首藤 奉文君） それでは、8番、新井一徳議員の御質問にお答えをいたします。

最初に、由布市の農業農村整備事業についてでございます。

本事業は、農業従事者の高齢化、担い手の減少、鳥獣被害の拡大とともに、地形的条件により狭小な農地が多く、効率的な農業が行いがたいことから、生産基盤の整備、生活環境の整備、農地の保全管理に取り組むことで主要産業である農業の継続と振興を図ることを目的としております。

現在取り組んでいる事業としては、中山間地域総合整備事業、ため池等整備事業、農山漁村活性化プロジェクト支援事業、農地・水保全管理支払交付金事業などがあります。来年度からは、集落基盤整備事業や地域農業水利施設のストックマネジメント事業など新たな事業を計画しております。

次に、進捗状況と今後の計画と課題についてであります。

中山間地域総合整備事業では、平成22年度に農業用排水路整備などで45地区、総事業費12億700万円を着手しております。平成24年度までの進捗率は29.5%となっております。

採択時点では、事業期間6カ年と定められておりましたが、約束されていた国の予算が先送りになり、完成予定が延びております。早期完成を望まれている地区が多く、対応に苦慮しているところでございます。早期完成を図るために推進協議会や県を通じて予算獲得に全力で取り組んでまいりたいと考えております。

ため池等整備事業、農山漁村活性化プロジェクト支援事業などは、現在のところ順調に推移をしております。

次に、簡易水道統合整備計画についてであります。市が現在管理運営している水道事業は、2上水道、11公営簡易水道となっております。総合計画に基づきまして段階的に事業統合を行い、平成29年度には由布市水道事業として一本化を図っていく予定であります。

適正な料金体系の設定については、現在、旧3町の料金体系が異なっておりまして、公平な負担と給水サービスの実現や健全な事業運営を維持するために水道運営協議会で料金改定や適正な料金制度を検討してまいりたいと考えております。

次に、情報通信インフラについてでございますが、インターネットは年代を問わず各層に広く浸透し、社会生活の中で不可欠な手段となっております。インターネットの利用ではブロードバンドが主流となっておりますが、由布市内ではブロードバンド環境になかった地域に対して、平成20年度、21年度にICT交付金を利用したケーブルテレビの展開を行い、ブロードバンド

環境となっております。光ファイバーは、庄内地域と挾間、湯布院地域の一部で整備できてない状況でございます。

県内の状況であります、公設や民設による基盤整備が整っている自治体もございますが、山間部や離島では光ファイバー整備が整っていないのが現状であります。光ファイバーによる高速ブロードバンドの基盤整備は、敷設費用、年間の維持管理費、耐用年数後の改修費用等で膨大な費用がかかることから、公設では困難な状況でございます。光ファイバー以外でも無線等で高速通信が可能なサービス提供も行われ始めておりまして、また民間の光ファイバー提供エリアも拡大をしていることから、民間事業者の参入を促していきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（生野 征平君） 新井一徳君。

○議員（8番 新井 一徳君） ありがとうございます。

まず、農業問題からいきたいと思いますけれども、近年、いろんなところで国際化が進んでいるわけですが、特に農業分野では、今、衆議院選挙でも争点になっておりますTPP、ほかにFTA構想とかいろんな形で貿易の自由化ということで叫ばれております。

まず市長に、TPP交渉参加問題について、簡単にいいですから所見をお聞かせください。

○議長（生野 征平君） 市長。

○市長（首藤 奉文君） TPPにつきましては、全ての関税を取っ払うという形になったときに、企業等につきましてはそういう有利な部分もあるかと思いますが、由布市の場合、主幹産業であります農業につきましては、この関税が取っ払われたときに、農業が将来、農業をやることができるかどうかという大変な危機的な状況が生ずる危険性があります。そういうことから、TPPにつきましてはそういう農業関係、それから企業関係としっかり切り離して、関税をそのまま残しておく部分とそれから取っ払う部分というのをしっかり、参加の時点では協議をし、そしてまたその方向で進んでもらいたいと思いますが、今現状、そういうことは全く行われておりませんし、わかりません。ですから、そういう状況で、もしそういう状況があれば、農業を守る立場から関税撤廃ということについては私は好ましく思っておりませんし、反対をしたいと思います。

○議長（生野 征平君） 新井一徳君。

○議員（8番 新井 一徳君） ありがとうございます。このTPP問題、そもそも交渉に参加するには全9カ国の同意が必要とか、早期の意思表示が必要だとか、交渉の参加を表明しても交渉が一切できないとかいう可能性があるとかいうような話を聞いております。日本に有利な条件を得るために早い参加が必要とかいうような推進派の主張もありますけれども、もう11月でしたか、APECで野田さんがそちらのほうに交渉のほうに参加する話をしてございましたけれども、逆にいうたら、もうそれも遅きに失しているんじゃないかというような、私はそういう感想を持

っております。TPP問題は難しいのでこの辺にしたいと思っておりますけれども、一応議長の許可を得まして資料をお配りしております。

1ページ目ですか、これです。――済みません、2ページ目を先にお願ひします。農業予算の、これは大分県の整備関係予算であります。右側の農林水産部が一応農業部門でありますけれども、わずか9%しかありません。その下の農業基盤整備事業費の、これは事業費ベースでありますけれども、平成22年度から大きく減となっております。ここがちょうど自民党政権から民主党政権にかわって、コンクリートから人へといった国策であろうと思ひます。そういったことで大幅に減されたことによって、先ほど市長の答弁もありましたけれども、予算がつかなければやっぱり事業がおくれていくというような形で、先送りというような話も出てきておりますけれども、予算獲得のためにはやっぱり大分県とかいろんな団体と一緒にあって予算獲得を求めていかなければならないと思ひますけれども、大分県の中にいろんな団体があると思ひますけど、推進協議会とかいろいろあると思ひますけど、推進協議会のそもそも、もう少しちょっと詳しく教えていただきたいんですけれども。

○議長（生野 征平君） 農政課長。

○農政課長（平松 康典君） 農政課長です。お答えいたします。

推進協議会の名称は、大分県農業農村整備事業推進協議会でございます。事務局は大分県都市改良連合会の中にございます。県内における農業農村整備事業の拡充強化や地域農業振興の発展を図ることを目的として、県下14市町で設立された組織でございます。推進事業のための要請活動や施策に関する提案活動などを行っております。

以上です。

○議長（生野 征平君） 新井一徳君。

○議員（8番 新井 一徳君） いずれにしましても、こんだけ減になるともう事業がおくれてくるのはもう目に見えておまして、資料の1番目に、真ん中辺ですか中山間総合整備事業というのがありまして、これが庄内が取り組んでおります。小さく（庄内）と書いております。そういった形で、庄内地域で整備されているわけなんですけれども、事業の内容として、2枚目に中山間地域総合整備事業、この中山間地域総合整備事業だけでもこの事業内容としてこれだけ農業生産基盤整備事業と農村生活環境整備事業と分かれておまして、中にいろいろ事業名が書いております。この中で、先ほど答弁の中で、45ほどの事業を行っているという答弁でありましたけれども、具体的にはどういった整備を行っているのか教えてください。

○議長（生野 征平君） 農政課長。

○農政課長（平松 康典君） お答えいたします。

現在取り組んでいる中山間地域総合整備事業庄内地区は、農業用排水路整備26地区、農道

整備3地区、鳥獣害進入防止施設整備11地区、農業集落道整備2地区、集落防災安全施設整備3地区、計45地区、総事業費12億700万円で、平成22年度に着手をしております。

なお、鳥獣害進入防止施設整備は、事業仕分けによりまして中山間総合整備事業のメニューから削除をされております。そのため、この鳥獣害進入防止施設整備につきましては、他事業により現在、もう実施を終えているところでございます。

以上です。

○議長（生野 征平君） 新井一徳君。

○議員（8番 新井 一徳君） 45事業を説明いただきました。ありがとうございます。農道整備が3つ、排水が26とか。農業集落道整備事業は、庄内中学校への道が採択されたと思うんですけども、その進捗状況はどうなっているのでしょうか。

○議長（生野 征平君） 農政課長。

○農政課長（平松 康典君） お答えいたします。

農業集落道整備柿原地区ですが、県道田野庄内線から庄内中学校をつなぐ通学路を兼ねた集落道でございます。計画延長は592メートル、幅員は全幅で7.5、車道幅員5メートル、片側歩道の道路を計画しております。平成22年に測量設計を行いまして、23年度に用地測量、24年度に、今年度ですが、用地の取得を計画しております。それから25年に着手をいたしまして、平成27年度に完成予定ということになっております。現在のところ、順調に推移をしているところでございます。

以上です。

○議長（生野 征平君） 新井一徳君。

○議員（8番 新井 一徳君） ありがとうございます。今順調に進んでいると聞いて安心しました。やっぱり庄内中学校は以前から大型バスが入らないということで、中学校は大変困ってございましたので、早くできればいいと考えております。

こういった総合整備事業、補助事業でありますので、当然負担があると思うんですけども、そういった負担率のことはちょっと余り触れられていないんですけども、中山間総合整備事業での受益者負担率はどうなっているのでしょうか。

○議長（生野 征平君） 農政課長。

○農政課長（平松 康典君） お答えいたします。

中山間地域総合整備事業庄内地区の補助率ですが、国が55%、県が30%となっております。地元負担率は、農業用排水路整備と鳥獣害進入防止施設整備が15%で、そのほかの整備につきましては市が負担することとなっております。

なお、先ほど申し上げましたが、鳥獣害進入防止施設につきましては、他事業によりもう実施

をしております。

以上です。

○議長（生野 征平君） 新井一徳君。

○議員（8番 新井 一徳君） ちょっと聞きづらかったんですけども、国が55の県が30でいいですね。それから15%ということで、あと農道とかそういった集落道整備には受益者負担がないということで、市が負担ということでいいですね。はい、わかりました。

通告にもあったんですけど、挟間の地域のことが余り触れられてなかったように思われます。今後、挟間のみならず、湯布院地域とあわせてこの整備事業の手順といたしますか、どうやって進めていくのか、特に、中山間ではないことはわかっているんですけど、どういった手順で進めていくのか教えてください。

○議長（生野 征平君） 農政課長。

○農政課長（平松 康典君） お答えいたします。

挟間地域の進捗状況でございますが、集落基盤整備事業（挟間地区）として農業用排水路整備11地区、農道整備1地区、農業集落道整備1地区、集落防災安全施設整備12地区、情報基盤整備1地区、計26地区、総事業費9億3,000万円で本年度採択申請を行っております。

湯布院地域は、挟間地域と同時に要望化調査を行いました。全体の要望量が少なく、事業化につながらなかったために、個別の事業を受益者と相談をしていきたいというように考えております。

以上です。

○議長（生野 征平君） 新井一徳君。

○議員（8番 新井 一徳君） 挟間は、今申請をしているということでいいですね。結局認可はまだ受けてないということになるんですか。いいですか。

○議長（生野 征平君） 農政課長。

○農政課長（平松 康典君） 今年度採択申請を行いまして、来年度採択が行われれば来年度着手ということになります。

以上です。

○議長（生野 征平君） 新井一徳君。

○議員（8番 新井 一徳君） そういった形で農村を取り巻く状況は厳しいんですけども、県としてもそういった補助なりをいただいて、国、県から補助をいただいております。

あわせて、通告にありましたように、農地・水環境保全向上対策は23年度で終わらして、24年度から新たに名前が変わりまして、農地・水保全管理支払いとなったんですけども、これはもうほとんど延長というような形になりましたけれども、これもかなり農村環境の整備とい

う形で向上対策とかいろんなことができます。そこで、これはもう中山間地域総合整備事業、農村総合整備事業とあわせてぜひとも必要な取り組みでありますけれども、由布市として今現在、この農地・水に関してどういった取り組みをやられているのかお聞きしたいと思います。

○議長（生野 征平君） 農政課長。

○農政課長（平松 康典君） お答えいたします。

農地・水保全管理支払交付金は、農地、水路などの基礎的な保全活動を支援する共同活動支援交付金と、施設の長寿命化のための活動支援をする向上活動支援交付金から構成をされております。

共同活動支援交付金には、由布市内から29組織、向上活動支援交付金には13組織が組み込まれております。向上活動支援交付金につきましては、県下でトップの交付額となっております。ちなみに平成24年度の交付額ですが、共同活動支援交付金は6,319万9,000円でございます。向上活動支援交付金は6,542万円となっております。

以上です。

○議長（生野 征平君） 新井一徳君。

○議員（8番 新井 一徳君） この農地・水の関係は、うちの地域でも平成19年度から取り組んでおまして、かなり評判がいいわけです。大分県のあのアンケートも見ましたら、97%ぐらいが大変助かっているというようなアンケート結果でありました。そういったことで、施設の長寿命化とかも含まれて、中山間地域総合整備事業では水路の改修の延長もかなりあるんですけれども、この農地・水の関係はある程度数メートルとして限られた中でありまして、大変有効な対策でありますので、今後ともそういった協議会とあわせて農政課の御支援をお願いしたいと思います。

特に予算獲得も、先ほど答弁がありましたように、大分県とかいろんな団体と一緒に国のほうに要望活動をいつてほしいと思います。

そういったことで、農村の分は終わりたいと思いますけれども、引き続き、水道関係であります。本年度、当初予算に簡易水道統合計画による庄内簡水及び蓑草簡水の認可申請書作成業務委託料が可決されました。この申請書はもうでき上がったのかということと、それと今後の予定はどうなっているのかお聞かせください。

○議長（生野 征平君） 水道課長。

○水道課長（秋吉 一郎君） 水道課長です。お答えいたします。

申請書について、どうなっているかということですが、まず庄内簡水と蓑草簡水については、今年度事業として予算化して、今実際今発注している段階でございます。認可申請についてはことし発注した工事について来年度認可申請をするような形になると思いますけれども、今後の予

定についてと、この認可申請の簡易水道の事業申請については、もう平成23年度から実施しております。もう23年度に若杉と塚原の簡水という形で、平成26年度に下津々良の浄化施設の関係の変更認定、認可申請ということと、それと湯平簡水と下湯平簡水の統合に伴うところの計画、それから平成28年度に、平成29年度一本化するという統合計画になっていますので、その統合認可をするための委託業務計画として一応計画しております。

○議長（生野 征平君） 新井一徳君。

○議員（8番 新井 一徳君） 水道に関しては水道運営協議会があるんで、私が余りとやかくいうことはありませんけれども、前にもちょっと一般質問で、平成22年に請願が受理されて採択されて、給水区域の拡張を求められた野畑と成合地区がその一般質問のときにはこれ統合計画はできないと、給水拡張にならないというふうな答弁になりましたんで、今そういった統合計画ができ上がっている中で、今後の野畑、成合地区はどうなっているのでしょうか。

○議長（生野 征平君） 水道課長。

○水道課長（秋吉 一郎君） 水道課長です。お答えいたします。

野畑、成合地区については、一応今水道事業の基本計画の中と簡易水道の統合計画の中で、とし今事業をしています庄内と蓑草の簡易水道の中で、庄内の区域に入るように一応区域拡張の中で本年度事業の中に入れるようにしております。

○議長（生野 征平君） 新井一徳君。

○議員（8番 新井 一徳君） 順調にいけば平成25年ぐらいからどうのこうのというような、前目野課長やったですか、答弁があったんですけど、その辺のところはどうなっていますか。

○議長（生野 征平君） 水道課長。

○水道課長（秋吉 一郎君） 水道課長です。お答えいたします。

当初、簡易水道の統合整備事業の計画を立てるときが平成22年だったと思います。そのころ、そういう話で、25年度ごろということで今議員が質問されたような形のことだろうと思いますけど、その後、今、私が先ほど言ったように、水道事業の統合計画の中で随時、昨年度から計画をしていく中で、庄内と蓑草の簡易水道については、24年度に一応業務委託でそういう申請書をつくって、来年度に、25年度に認可申請をもらうという形になると思います。それからあと、事業計画についてはほかの簡易水道の関係がありますので、29年度までにどういう形になるかというのは、事業実施計画の中で一応の計画は持っております。

○議長（生野 征平君） 新井一徳君。

○議員（8番 新井 一徳君） あと、先ほど統合計画の中でいろんな、庄内簡水と蓑草簡水、その後の統合計画が示されました。この簡易水道統合計画は、この簡易水道を統合するだけではなくて、平成28年度までに統合してしまっ、29年度からは水道事業のほうに切りかえると。

だからもう由布市は一本化して水道事業にしてしまうというような計画だと思うんですけども、結果的に、同時に進んでいくわけですか、簡易水道の統合と湯布院上水と挾間上水の統合と合わせて進んでいくわけですか。

○議長（生野 征平君） 水道課長。

○水道課長（秋吉 一郎君） 水道課長です。お答えいたします。

今議員が言われるように、水道事業の基本計画とそれに伴うところの実施計画が今あります。基本計画に沿ったところで、先ほど言った簡易水道の統合整備事業が並行して進んでおります。当然、基本計画の中で平成29年度に上水と簡水が統合されるようになっておりますので、会計を一本化するという計画の中で今進めております。

○議長（生野 征平君） 新井一徳君。

○議員（8番 新井 一徳君） 上水と簡水、簡水統合ですからもう水道になるわけですけど、私も心配されるのが、先週の二ノ宮議員のこの資料です。一般質問資料で、上水の原価と単価がやっぱり、湯布院の場合は良好です。ありますけれども、由布市の簡水も原価と供給がもうかなり差があって、赤字というような形でありますけれども、そういった形の中で、恐らく財政計画も立てながらやっていると思うんですけども、その辺のところをちょっとお聞かせください。

○議長（生野 征平君） 水道課長。

○水道課長（秋吉 一郎君） 水道課長です。お答えいたします。

財政計画ということですので、私、先ほどから説明しておりますように、事業実施計画の中で一応簡水が29年度までにはそれぞれ事務統合すると。29年度から統一をするということで、上水と統一して会計は一本化になるということですので、その計画に基づいたところで、現在、さっき言った実施計画の中で、統合された計画に基づいております。先ほど言った給水原価と供給単価の関係もありますので、そういうところを踏まえたところの計画も中に入っているようになっています。

○議長（生野 征平君） 新井一徳君。

○議員（8番 新井 一徳君） この由布市ビジョンの中にもいろいろ、水道事業が原則としても完全独立採算制で運営されなければならないとか、当然、統合になれば統一料金にしなければならないんですよね。現実的にもう。その辺のところは二ノ宮議員も、早くしたほうがいいんじゃないかというような話でもありました。この水道ビジョンに書いている適正な水道料金と言われる、その適正なというのがなかなか、はっきり言って難しいところでもありますけれども、いずれにしてももう簡易水道の統合と水道がもう一本化、湯布院と挾間が一本化して、もう簡易水道も取り込んで水道事業となるわけですから、その辺のところ、早く水道運営協議会に説明して、統一料金に向けて頑張っていただきたいと思っております。

次です。じゃいきます。そこはよろしく願います。

じゃ、情報通信のほうでありますけれども、先週、田中議員から、丸投げみたいな形で請け負わされましたけれども、弱少な下請でありますので、ちゃんとした質問ができるかどうかわかりませんけれども。

まず、情報格差といっても、調べれば世代間、例えば10代、19歳、20歳と40歳、50歳代といった、70歳代とかいろんな世代間の格差とか、所得格差とか、やはり所得の多い人のほうがそういった機械をちゃんとそろえるというような形で、大きく3つに分かれるみたいですよ。

今回は、私としてはもう地域格差について議論したいと思っておりますんで、ある記事を読みました。「由布市からブロードバンド普及支援事業を受託」というような記事がありました。格差なく全ての市民の方々にブロードバンド環境をとということで、関西何とかというところが請けたわけですが、由布市が市内の未整備地域への環境整備を重要な施策として位置づけられ、由布市ブロードバンド普及支援事業として進めておられましたNTT大分阿蘇野局の対象エリア（直野内山、野畑、阿蘇野）地域にお住まいの住民の方々への高速ブロードバンドサービスが提供できることとなりましたという記事でありました。

これはもう阿蘇野のほうも行ったんだなというような感じで受けたんですけども、聞くところによると、湯平のほうも民間でサービス提供が行われているようですけれども、こういった形でそういった整備ができたのか、わかれば教えていただきたいと思えます。

○議長（生野 征平君） 総合政策課長。

○総合政策課長（溝口 隆信君） 総合政策課長です。お答えいたします。

まず最初に、ブロードバンド環境ということでお答えしてよろしいでしょうか。（「はい」と呼ぶ者あり）田中議員のときにも一応御説明申し上げましたですけれども、5年前から、国は平等、ブロードバンド環境ゼロ地域解消ということで推し進めておまして、私どもの市内については、市長御回答申し上げましたように、無線も含めて、全地域解消しているというふうなことなんですけれども、地域別にお答え申し上げますと、今御指摘の庄内地域の阿蘇野地域に関しては、関西ブロードバンドという会社に請け負っていただいて、大分県の事業をお借りしまして復旧支援事業を行ったところございまして、これはリーチDSLというふうなブロードバンドの名前でございまして、これが阿蘇野地域に行っております。そのほかについては、ケーブルテレビやインターネットの環境も含めて、20年、21年に庄内地域を中心に、電気通信事業者さんが湯布院や挾間地域に比べて、庄内地域は参入が非常におくれているということも踏まえて、20年度と21年度に、今言う関西ブロードバンドの事業とあわせてICT交付金事業を行ったところございまして、庄内対象地域については竹の中公民館、柚の木公民館、小挾間公民館、影

戸公民館、それから龍原公民館とあわせて奥江、水地公民館まで、この国の事業をかりまして大分ケーブルテレコムさんでございましたですけども、インターネットのケーブルインターネットですけども、環境を整備したところでございます。

なお、湯布院地域につきましては、NTTさんの光が盆地内に入っておりますし、あわせてOCTさんが、これは盆地内にも参入を、民間産業としてやっているというふうな状況です。

挾間地域については、合併前から光のほうが早く進んでいまして、一部を除いて光が入っているような状況でございます。

以上、簡単ですけども、よろしく申し上げます。

○議長（生野 征平君） 新井一徳君。

○議員（8番 新井 一徳君） なかなか簡単じゃないとこっちもわからないんで、簡単で結構ですけど、地域イントラネットで龍原とか大津留地域とか、奥江とかいろんな形でケーブルを引いてもらったんですけど、実際にそれが活用されているかということ、実情は多分活用されていない。龍原も私聞きましたが、公民館来ているけど、パソコンもないし。だから、大変申しわけないんですけども、もうせっかく引いてもらったのに申しわけないなと思っているところなんですけれども、現実それが来たときに、総合政策課の方に聞いたら、その公民館からある程度無線で飛ばせば、100メートル近所はいくというような話も聞いたんです。その辺のところをやっていただかないと、やはり個人の家でそういった通信の分が来ないと、利用される方がいないんです。そういった事業が何とかできないかなというような、もう民間に任せるとするのはわかるんですよ、それは。公共でなかなかできないけれども、そういった事業を展開を、もうちょっと先まで進めていくというような方向ができないものなのかお聞きしたいと思います。

○議長（生野 征平君） 総合政策課長。

○総合政策課長（溝口 隆信君） お答えいたします。

今、議員御指摘の公民館まで、私さっき説明、8公民館申しあげましたですけども、そこまで市としてその事業を使って線を引いているということでございまして、その線については関西ブロードバンドに今貸し付けを行ってございまして、その公民館から先については、300メートル以内について申し込みが各戸からあれば、そのOCTを通して使用できるようになっていると。ただし、今言うように、公民館から先の利用者については、若者がいれば利用があるんですけども、なかなか利用するような環境があるにもかかわらず利用者がいないことは事実でございます。

以上でございます。

○議長（生野 征平君） 新井一徳君。

○議員（8番 新井 一徳君） 資料の最後につけているんですけど、交付金の右下にイメージと

というのがあるんです。この情報通信利用環境整備推進交付金というのがありまして、これ最近またできたんですけど、これもイメージのところを見ると、公益的施設、学校、医療機関等から無線の活用とかなんとかあるんですけど、できればこれ公民館からこういった形でやってもらいたいと。

なぜかという、現実にそういった過疎地にはもう学校もなくなっている、廃校になったようなところもありますし、そんな過疎のところに病院もありません。ですから、公民館から無線で飛ばせないかという質問であるんですけども、先ほども言われましたように、その公民館から無線を飛ばせば300メートル範囲ぐらいは可能だと。しかし、利用者、利用率が制限されるんですよ、恐らく。でも、最後のページにありますように、1番、これが利用可能率です。これ、国が100%にするという目標で、今大体全国で93%ぐらい超高速ブロードバンドが可能、可能率です。可能な地域がこのぐらいあるというような方で、2番目が、しかしこれ利用率ですか、これは全国平均で38%ぐらいしかいってないんです。ですから、私としては、そういった制限を恐れずにやらないと、現実に商業ベースに合わないところが絶対こういった事業の展開をされないところなんです。だから、国の力をかりながらやっていかないと、そういった施策を由布市としてやらなければいけないんじゃないかという、私としてはそう思っているんです。

先ほど、県内他市との比較も、あんまり詳しく言わなかったんですけど、もうちょっと他市との比較とかないんですか。由布市がこのブロードバンドの環境が大分県の中でトップとか一番びりとかいうようなことはないんですか。

○議長（生野 征平君） 総合政策課長。

○総合政策課長（溝口 隆信君） お答えいたします。

まず、県内の状況でございますけれども、18市町村ある中で、公設でやっているところが11市町村ございます。民設民営、いわゆる電気通信事業者さんがやっているところは、大分、別府、津久見市ですので、4市町でございます。公設プラス民設が佐伯市さんがやってございますので、そこが1ということで、あと残る私どもの市と玖珠町さんが——私どもについては、2地域については民設が先行している関係で、真ん中の庄内地域が少しその超高速ブロードバンド環境と言えは少しおくらしているというふうな認識でございますけれども、そこについてのこれから、一昨年、計画をつくってございますので、その中の方針としては、何度もいいますように、いわゆる日進月歩でこの情報については目まぐるしく環境が変わっている関係で、民設さんの動きも非常に早いということもございますので、そこは民設さんの力をうまく利用しながらと申しますか、利用させていただきながらカバーしていくと。そのカバーできないところは、当然公設として検討はしないといけないと思いますけれども、基本的には民設を即しながらやっていきたいというふうに考えてございます。

○議長（生野 征平君） 新井一徳君。

○議員（8番 新井 一徳君） 竹田市みたいに全部ケーブルを引けとも私は申しません。やはりケーブルを引けば引いただけ後の整備、修理とか大変という話も聞いております。しかし、同じ地域に住んでいて、こういったある程度格差があると、幾らここでいつも議会の中でも言うように、ホームページで公開していますとかいろんな答弁がありますけれども、ホームページを見れないところもあるんです。そういったところをやっぱり少しでもなくすということ由布市としても必要ではないかと思うんですよ。そういうところを市長はどうお考えでしょうか。

○議長（生野 征平君） 市長。

○市長（首藤 奉文君） 議員おっしゃるとおりであります。

○議長（生野 征平君） 新井一徳君。

○議員（8番 新井 一徳君） 通告にあったように、企業も進出してこないんです。もう今は光じゃないと来ないというような話なんです。ADSLぐらいじゃだめだというようなことで、私の聞いた話では、庄内のAKシステムさんも光通信がないということで、自前でNTTと交渉して、使用料を払って光ケーブルを引いているというような状況も聞いています。

特に庄内振興局長にお聞きしますけれども、そういった企業進出などに問い合わせとかそういった光が来ているとか、そういった問い合わせはなかったのかお聞かせください。

○議長（生野 征平君） 庄内振興局長。

○庄内振興局長（工藤 浩二君） 庄内振興局長です。お答えいたします。

今言われましたAKシステムにつきましては、以前ですが、そういった問い合わせがありまして、市としては契約がないということで、そしたら自前で高額の使用料を払って今現在やっているという状況です。

それから、最近につきましては1件、廃校になった小学校に企業が来たいという相談の段階だったんですが、そこ光がないということで、それだけが理由じゃないんですが、来なかったという経過も実はございます。

以上です。

○議長（生野 征平君） 新井一徳君。

○議員（8番 新井 一徳君） そういった形で、今、学校の統合整備計画も出ていますけれども、やはりそういった学校跡地に、広大な土地に企業が進出する場合も、こういった情報通信サービスが受けられないようなところには企業は来ないと思いますので、そういったところがまた雇用の創出も失って過疎に近づく——過疎に近づくって、もう過疎は過疎ですけれども、過疎の対策になっていないというふうなことがありますので、資料の一番最後に、これ国の総務省からの分ですけど、もうとにかく、民間も大事ですけれども、地方自治体、国の一体的な取り組みによっ

てこういった利用が受けられるサービスを、由布市でも全ての人が等しく受けられるようにやっ
てもらおうということを要望しまして、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（生野 征平君） 以上で、8番、新井一徳君の一般質問を終わります。

.....

○議長（生野 征平君） ここで、暫時休憩します。再開は14時10分とします。

午後1時55分休憩

.....

午後2時10分再開

○議長（生野 征平君） 再開します。

次に、3番、甲斐裕一君の質問を許します。甲斐裕一君。（拍手）

○議員（3番 甲斐 裕一君） 3番、甲斐裕一でございます。議長の許可を得ましたので、一般
質問をさせていただきます。

その前にお願いがあります。何か後ろの方が質問者だけを映さないでしっかり自分たちも映し
てほしいなというので、時々カメラを回していただきたい。

では、始めたいと思います。師走に入り、寒さも一段と厳しくなりました。この寒い中、私の
自治区では、農業組合法人南田代の組合員が、組合長を筆頭に麦植えに精を出しているところ
でございます。本当に御苦労さまですと手を合わせているところでございます。

なぜかと申しますと、組合員は力を合わせ、地域の活性化に、さらには耕作地の荒廃をなくそ
うと必死の地域づくりを行っているからでございます。

さて、昨年は3月11日、未曾有の東日本大震災、今年度は北部九州梅雨前線による大豪雨災
害と、自然災害が続き、大不況の中、追い打ちをかけるように日本に暗い影をもたらしたといっ
ても過言ではないかと思えます。

このような中、政府は、災害復旧を理由に、自治体への交付金事業の減少で24年度事業の当
初計画した事業の見直しを余儀なくされています。事業を実施していただいている地域の住民は
落胆しているところであります。

今年度予算を編成する12月、ことしの経緯を踏まえ、国、県に強い姿勢で挑み、当初の年次
計画が計画どおりに進むことを強く要望しておきたいと思えます。

そこで、次の点について一般質問させていただきます。よろしく願いいたします。

大きな題目といたしまして、1つ、消防団の組織運営・育成の推進について、2つ目、自治防
災士の組織運営について、3点目といたしまして、挾間中心部の国道・県道・市道の整備促進に
ついてお聞きしたいと思います。

再質問につきましては、この場でお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

○議長（生野 征平君） 市長。

○市長（首藤 奉文君） それでは、3番、甲斐裕一議員の御質問にお答えいたします。

最初に、消防団の現状についてであります。

由布市消防団は、3方面隊で16分団、65部の構成となっております、4月1日現在の団員数は786名となっております。

災害や火災等は初期活動が重要であることから、消防団員が活動しやすいように資機材の整備を行うとともに、自治委員にも新入団員の推進をお願いして、消防団員の育成に努めてまいりたいと考えておるところであります。

団員の訓練、指導についてであります、火災予防週間に行われる訓練、1月の特別点検に向けた訓練、各方面隊での独自の訓練が行われております。訓練の中では各消防団、消防団と消防署などの中継訓練も行われておりまして、消防署との連携強化に努めているところであります。

また、大分県消防学校で行われる基礎訓練や幹部訓練への参加のほかに、ポンプ操法科、指導員科など9科からなる特別教育にも参加をして技能を磨いているところであります。

次に、自主防災組織の運営についてお答えします。

まず、「自分の命は自分で守る」「自分の地域は自分で守る」ことが重要であると考えております。本年、市内在住の防災士が68名誕生いたしまして、合計89名となりました。防災士が誕生した自治区を中心に、自主防災組織の設立を要請して、地域住民が中心となり、地域の特性を生かした防災訓練に取り組んで、減災につながるよう努めてまいりたいと考えております。

今後、全ての自治区に防災リーダーを配置できるように、来年度も防災士養成に向けた取り組みを行ってまいりたいと考えております。

次に、消防団と消防署の連携についてでございますが、現在、消防団事務は防災安全課が行っておりますが、消防組織法第18条によりますと、消防団は消防長と消防署長の所管のもとで行動することになっており、この事務を消防本部内に移行する計画であります。

消防本部内に置くことで、消防本部と消防団の連絡が密になるとともに、消防士による高度な訓練も受けることができるようになり、さらに連携強化が図られるものと考えております。

次に、挾間中心部の国道・県道・市道の整備促進についてでございます。

国道210号の挾間三差路で渋滞が生じることから、交差点手前下り線に左折レーンを延長するよう、国土交通省に働きかけておるところであります。要望しておりました歩道の整備につきましても、当交差点付近から天神橋までの区間を平成24年度に事業化したと聞いております。

県道の整備であります、大分土木事務所が別府挾間線の宮田団地入り口から国道210号の方向へ改良事業を進めておりまして、本事業完了後に、引き続いて赤野地域の改良も必要となることから、早期完成を県に要望してまいりたいと考えております。

市道の整備であります。向原別府線北方工区の改良事業を平成24年度から本格的に実施をいたします。また、柏野地区では中村柏野循環線、下市地区では下市見取線の改良事業に着手をしているところでございます。

次に、通学路の安全対策についてであります。市道に関する要望箇所につきましては建設課で点検を済ませております。関係者と協議しながら、必要な安全対策を講じてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（生野 征平君） 甲斐裕一君。

○議員（3番 甲斐 裕一君） では、再質問させていただきます。

私が今回消防団についてなぜ質問をしたかと申しますと、ことし消防団一筋に頑張っておられた故佐藤崧男団長の出会いからであります。兄のように慕い、弟としてかわいがっていただいたことが始まりです。氏とは二十数年来の、消防団とは何かを互いに切磋琢磨しやってきました。この間、指導も受けたし、意見交換もやってきました。時には意見の食い違いで論戦もありました。しかし、互いに行き着くところは消防団の心得である「人の生命と財産を守る」でありました。

そのような中、現在、消防団の現状はどのような状況なのか、また今後の団の運営、推進をどのように図っていくのか、今後の消防団の現状を見て私も不安を持っている一人でございますが、市民の方々もそう思っていると思います。そういう中で、私は今先ほどいいますように、きょう、議長の許可を得て資料を皆さんにお配りしていると思っておりますが、この状況を見ますともうおわかりかと思っております。正規の団員が805名なのに対しまして786名、これが年々減っている状況はどういうことかと見ますと、横に3方面隊あります。その中で8名、11名、8名と、挟間のほうを見ますとこういう形になっております。これは、正規では挟間の2部でございますけれども10名ないし12名が4部しかございません。これが正規の、今まで私がやってきた団員数の正規の数字だと思っております。そういう中で、13とか8、9、こういうあるのはやはり人員が欠けているところだと思います。

そういう中で、私は今回、人員の確保を今後どうしていくのか、そういうことが非常に心配になってきております。それで、消防団員は地域の活性化の源になる一員だと私は自負しております。そういう中で、1人ずつ減っているのですが、防災安全課長としては今後どのようなこれを正規の団員数にしていくのか、ちょっとお伺いしたいと思っております。

○議長（生野 征平君） 防災安全課長。

○防災安全課長（御手洗祐次君） 防災安全課長です。お答えします。

今言われたように、定数を満たしておりません。そういう中で、防災安全課といたしましては、

各自治委員の皆様をお願いしております。そういうことで、今若い人が大分市内とか遠くの方に勤務している状況で、なかなか帰ってこれない、そういう状況が多くありますので、そこが団員に入らないと、そういうような状況になっております。そういうことを含めまして、団塊の世代が今退職を迎えております。そういう人たちにもお願いをしまして、再度入っていただくと、そういうような1つの案として考えております。

以上です。

○議長（生野 征平君） 甲斐裕一君。

○議員（3番 甲斐 裕一君） 過去は、団員が自分の後継者を探して団員を見つけて、そして入団させるというようなことが現状だったと思います。そういう中で、今言うように、大分市、それから早くいえば名前だけの者もある、そういう感じではありますが、その中で、自治委員さんをお願いしてということでございますけど、ほんとにそれが可能かどうか、若者がいないというのが現状でございますけど、そういうのを自治委員さんと協働してやるということでございますけど、果たしてほんとにあるのかどうかちょっとお伺いしたいんですが。

○議長（生野 征平君） 防災安全課長。

○防災安全課長（御手洗祐次君） お答えします。

ある自治区では、若い人がいないということで、自治委員が団員になって、再度入団をして消防団を守っている、そういう地区もありますので、そういうことも含めまして団員の皆様にもお願いする。それから、自治委員の皆様にもお願いして、定員を満たすように努力していきたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（生野 征平君） 甲斐裕一君。

○議員（3番 甲斐 裕一君） 今、この図を見ますと、やはり地方公務員、早く言えば市の職員と農協の職員等でほんとに団員が活性化していたというような私は記憶があります。その中で、農協の関係はどのような、今なっていますか。

○議長（生野 征平君） 防災安全課長。

○防災安全課長（御手洗祐次君） この表のところにありますように、特殊法人というところの中に農協職員ということで13名。以前から見ますと非常に少ない状況になっていると思いますが、これはやはり地区の問題であろうかと思っておりますので、これは何とも言いようがありません。

○議長（生野 征平君） 甲斐裕一君。

○議員（3番 甲斐 裕一君） これは、過去は農協、今もう大分県農協になりましたからちょっと大変だと思うんですけど、やはり農協に出ている職員、数をやっぱり把握するのが大事ではないかなと思っております。そういう中で、やはり農業とかいろんな面でしているのは、やっぱり

農協もこれにはやはり力を入れてもらうべきだと思っておりますけど、その点はいかがでしょうか。

○議長（生野 征平君） 防災安全課長。

○防災安全課長（御手洗祐次君） 農協としても、一企業ではなかろうかというふうに思っております。そういう中で、由布市内の企業もいっぱいあろうかというふうに思いますので、そういう企業にもこちらのほうから声をかけていきたいというふうに思っています。

以上です。

○議長（生野 征平君） 甲斐裕一君。

○議員（3番 甲斐 裕一君） ありがとうございます。これは本点検とか訓練点検のたびに会社のほうへ依頼というのをしております。そういう中で、市長にお聞きしますけど、この団員の加入について、農協のほうに申し出とかいうのは考えてないでしょうか。

○議長（生野 征平君） 市長。

○市長（首藤 奉文君） 今までそういうことをした記憶はございません。団員確保については、今課長が言ったように、いろんな企業の方々にもまたお願いをしていかねばならない状況であろうというふうに思っております。

○議長（生野 征平君） 甲斐裕一君。

○議員（3番 甲斐 裕一君） 私がなぜ農協の職員をといいますと、今の農協を見てみますと、やっぱり農業、これに対しての地域性とかそういうのが把握できてないような感じでなりません。金融一本でいく農協のような感じで仕方ありませんが、そういう中で、農業をいかに見て、そしてやっていくかというのもやっぱり農協職員は必要じゃないかなと思っておりますので、そういうふうに市長のお考えをお聞きしたわけでございます。

これから、やはり農協の職員をどんどん行政のほうにもしていただいて、そしてお願いしていただきたいなと思っております。企業の方なんかはほんと今、不況の折で大変だと思いますけど、農協の職員ならば何とかなるんじゃないかなと私は思っております。何か、安全課長。と思っております。そういう中で、努力していただきたいなと思っております。

それと、今、地域の活性化ということがありました。昔の団員は先輩たちの行動を見ながら、背中を見ながら、地域の現状を教わり、そして地域の伝統、地域の現状、それから地域の危険箇所等々が把握できたと思っております。そういう中で、先ほど言いましたように、団にほんとに若者がいない状況でございます。

そこで、団塊の世代と先ほど言いましたけど、団塊の世代もはっきり言って5年もてるかどうか分かりません。消防団員としてはいろんな面で活躍といいますか、また努力しなきゃならない、地域の発展のためにやはりどうかしなきゃならないですけど、これについて、自治委員さん、そ

れから地域の皆さんと協働してやるというんですけど、どういう方向でやるのか、できれば考えるところを教えてくださいたいと思っております。

○議長（生野 征平君） 防災安全課長。

○防災安全課長（御手洗祐次君） 消防団につきましても、ほんと若い人が少なくなっていると。そして、由布市から遠くのほうに仕事に行っている人がかなりおります。先ほど議員が指摘されましたように、幽霊団員等もおります。そういうことで、いざというときには非常に問題がかなり出てくるんじゃないかなと思っております。そういうことで、やはりもうこれはお願いするしかないんです。消防団員にもお願いして、団員確保をお願いしたい。それから、自治委員の皆さんにもやはりお願いしたいと、そういうことしか今はないんじゃないかなと思っております。そういうことで誠心誠意お願いをしていきたいと思っております。

○議長（生野 征平君） 甲斐裕一君。

○議員（3番 甲斐 裕一君） 次に、やっぱり訓練について、これについてちょっとお聞きしますけど、今まで過去、新入団員、それから中級幹部、それから団長というような学校に入校していろんな面をされたと思います。しかし、今の状況はどうなっているのかお聞きしたいと思えます。入校。

○議長（生野 征平君） 防災安全課長。

○防災安全課長（御手洗祐次君） お答えします。

これは、春と秋、夏の訓練もあります。秋の訓練もあります。それから、特別訓練もあります。それから、3月にもありますし、その訓練を通じて新しい新入団員とか基礎訓練等を行っております。

それから、各方面隊によって、訓練を重ねております。そういうことで、この訓練につきましても、1年間を通して行っているような状況であります。

以上です。

○議長（生野 征平君） 甲斐裕一君。

○議員（3番 甲斐 裕一君） その5つか6つ訓練があると思います。そういう中でやるのはいいんですが、これはやっぱり新入団員に限ると思います。なぜ私が言うかといいますと、現在、いろいろ消防法が変わったり実技、新たな実技が加わっていると思います。ひとつひとつ協働とかそういうところが変わっているんじゃないかなと思っております。これを教育を受けるのは、私は中級幹部、特に分団長、それと部長、この点についてはやはり入校させて、そして新技術、それから消防法などで教育するのが妥当だと思っているんですけど、その点はどうでしょうか。

○議長（生野 征平君） 防災安全課長。

○防災安全課長（御手洗祐次君） 消防団の訓練につきましても、先ほど言いましたように、幹部

訓練とか特別訓練等に全ての団員を訓練させるようにしております。

以上です。

○議長（生野 征平君） 甲斐裕一君。

○議員（3番 甲斐 裕一君） 訓練はその場でできるんですけど、私が言うのは、やっぱり入校、学校に行って新規的なやつを確保しなきゃならないと思っているんですけど、どうでしょうか。

○議長（生野 征平君） 防災安全課長。

○防災安全課長（御手洗祐次君） 消防学校で各訓練があります。それにこちらのほうから各団員にお願いしまして訓練に行かせております。ことしもかなりの団員が学校に行っております。そこで訓練をしていると思います。

以上です。

○議長（生野 征平君） 甲斐裕一君。

○議員（3番 甲斐 裕一君） 私がなぜそういうかといいますと、やっぱり消防団員は非常勤の公務員です。そういう中でやっぱり一つの研修を設ける必要があるんじゃないかと思って私には言っているわけですが、やはり一番かかってくるのは分団長、この方たちが主に団を率いる。そうしなくては団の動きが余りよくないといいますか、活発ではないものになるんじゃないかと思ってそういう話をしたんですけど、やはり年に春、それから秋ぐらいには、2回ほどはやっぱり入校させるのが一番の教育、団員の養成ができるんじゃないかなと思っております。

それと、非常に今皆さん、お勤めで苦しいときだと思っておりますけど、そういうところを抜いて、3日間ぐらいは入校させるようなことはできないかどうか。どういうお考えでしょうか。

○議長（生野 征平君） 総務部長。

○総務部長（佐藤 式男君） 総務部長です。防災安全課は、消防団の事務の所管であるんです。消防団の訓練については消防団の幹部会議で全部決めています。我々のほうからこれしなさいあれしなさいじゃなくて、消防団の自主性として訓練をやっていますので、甲斐議員がおっしゃるように、こちらから、あれやれこれやれというのはなかなかできないというふうに私なんか考えています。

以上です。

○議長（生野 征平君） 甲斐裕一君。

○議員（3番 甲斐 裕一君） ただいまの総務部長の考えはわかりますけど、幹部会議、そういう中で指示していくのはその団を扱っている課だと思っているんですけど、それはどうでしょうか。

○議長（生野 征平君） 総務部長。

○総務部長（佐藤 式男君） 総務部長です。私も幹部会議何回か出たんですけども、基本的に

は消防団のほうでそういう訓練計画は立てています。

以上です。

○議長（生野 征平君） 甲斐裕一君。

○議員（3番 甲斐 裕一君） まあこれは堂々めぐりになると思いますけど、やはり私は、その所管課がこういうのが今回学校であります、それには入校させてくださいというのが団長等の幹部に対して要請して、そして団がそれをやるかどうかは決めるのは団だと思っております。そういうことを今後考えていってもらいたいなと思っております。

次でございますが、先ほどから消防団の入団に関しては、地域のいろんな面を考えた上で、自治委員さん等をお願いするということですが、各振興局長さんが今消防団の現状とかそういうのを、それから今後のあり方というのをどのように考えているか。また、自治委員さんに対しての働きかけもあるかなと思っております。その点、3地域ともやっぱり地域性があると思いますので、一人一人お願いします。

○議長（生野 征平君） 挾間振興局長。

○挾間振興局長（志柿 正蔵君） 挾間振興局長です。

議員の御質問の消防団の確保ですけれども、言われるような現状があります。挾間地域についてはまた特に大分市の勤務という方が多いので、なかなか地元での確保というのは平時の分は難しいです。ただ、今はそれぞれの自治委員、それから消防団の団員の方の努力によって、定数は222名ですけれども、今220名というようなことで、何とか今確保しているという状況であります。

○議長（生野 征平君） 庄内振興局長。

○庄内振興局長（工藤 浩二君） 庄内振興局長です。

庄内につきましては、庄内方面隊で7分団で、定数が280名で、実数が271名ということで、9名の減員、4分団6部において9の欠員というふうになっております。団員不足は同じだと思いますが、やはり若者が地域にいなくなってきたということが大きいだろうかと思っております。それとやはり市外に勤務者が多くなったという状況もあろうかと思っております。

今後の対応として今考えているのは、市内事業者の加入推進も検討していかなければいけないかなというふうに思っておるところです。そういうことです。

○議長（生野 征平君） 湯布院振興局長。

○湯布院振興局長（松本 文男君） 湯布院振興局長です。質問にお答えをいたします。

湯布院の方面隊につきましては、団に所属する自治区、それから消防団のOB、それから団員等が勧誘に当たりまして、もうある程度の確保はできているということだと思っております。

団の活動につきましては、湯布院はもともと自分の地域は自分で守るという意識が強い地域で

ございまして、自治消防の認識がほんとに強い地域でございます。由布市消防団の活動以外に自治区の安全安心のために独自で広報等を行ったり、通常の業務としてそういうことが行われているところがございます。自治区の祭りや行事につきましても、消防団の力がなければなかなかできないところがありますので、そういう面にも活発に活動を行っているところがございます。

以上でございます。

○議長（生野 征平君） 甲斐裕一君。

○議員（3番 甲斐 裕一君） ありがとうございます。ちょっと余談でございますけど、湯布院の消防団の方にはほんとに今回の岳本の土砂災害、これ非常に御苦労なさったと聞いております。団員すごい人は20日ぐらい、もう毎日のように詰めていたということを知っております。ほんとに頭の下がるような思いでございます。そういう中で、今湯布院はいつも団員の確保は十分であるということをお聞きして安心いたしました。

それで、最後の問題でございますが、消防署、署との連携、これについて、さっき市長は、今度、来春になるかわかりませんが、消防署に団を管理させるということを知っております。そういう中で、これから消防団と消防署の連携はうまくいくんじゃないかなとは思っておりますが、私、ことし、向原商店街が火事があったときでございます。あのときに、私が見ていると、どうしても何か団と署が離れているような感じがしてなりません。というのが、やはり消火の仕方がまた団と署は違うのかなと思ったような気がしてなりません。やはり団長、それから消防長が立って指揮をするにしても、団と署の間の連絡係、私は昔、自分で思いながらしたんですけど、目配り気配り待ち針というのを感じております。なぜ待ち針かといいますと、もう目配り気配りはわかると思います。もう用意ができたぞ、それから団の団長の号令、それから消防長の号令、これいかんによって、それを待ちで団員は待っているわけです、署員は待っているわけです。それを最後に待ち針といって号令を待っているようなことを指すわけでございます。

そういう中で、気配りと目配りがちょっと団員と署員のちょっとした形ができたんじゃないかなと思います。そのときの、今後どのようにしていくのか、消防長、姿を見てどうですか、状況を見て。

○議長（生野 征平君） 消防長。

○消防長（大久保一彦君） 消防長です。甲斐議員さんの御質問ですが、消防団とはもう毎年、中継訓練等で連絡を密にいたしております。いざ火災の場合、先ほども言われましたとおり、指揮本部というのを設置するわけですが、消防長、署長、団長らがそこに常駐をしているのが当然であります。それから、現状では指揮隊長が到着するまでは、その上席の者が指揮をとるといふようなことまではあるんですけども、なかなかうまいぐあいについてないのが現状だとは思っています。

火災時には、通常、火点側に消防署が部署します。消防団からの中継を放水を受けて消火に当たっているんでありますけれども、先ほどいいましたように、連絡が密でないということから、やっぱり消防無線が消防団と消防署と違いますもんで、その辺が統一のものが持てるようになればまた横の連絡も密になるのではないかなというような気もいたしております。

以上です。

○議長（生野 征平君） 甲斐裕一君。

○議員（3番 甲斐 裕一君） 先ほど消防長が言いましたように、無線、これについてやっぱり一本化する必要があると思いますけど、その計画は課長、どのような計画をしておりますか。

○議長（生野 征平君） 防災安全課長。

○防災安全課長（御手洗祐次君） お答えします。

無線については、今事務局のほうの3振興局と防災安全課、これ12月に防災無線が入る予定になっております。その中で、事務局が各3振興局におりますので、それと消防団がつながりを持つような連携の仕方を計画をしております。

以上です。

○議長（生野 征平君） 甲斐裕一君。

○議員（3番 甲斐 裕一君） そのようにしていただきたいと思います。ありがたいことですが、ちょっと私、ことしは向原商店街の火事、これについてもやはり、今見てみますと、消防団のOBの方、こういう人たちが中に入っちゃったものですからこのような結果になったんじゃないかなと私は感じているところでございます。それで、一番大事なのはやっぱり署と団の連絡体制、これをやっぱりきちっとせんと、また類焼とか延焼とかそういうのが出てくると思いますので。あれ昼でよかったんですけども、夜火事になっておれば、まだもっと大きな火災になっているんじゃないかなと思っております。今後、そのようなほうに気をつけていただきたいと思っております。

次でございますが、防災士の関係です。今回、市の計画として、防災士の養成を図るために、研修、それから試験まで受けて防災士の資格を取ったと思っております。そういう中で、今後この防災士の位置づけ、それから今後どういうふうにやっていくのか、養成していくのか、この点をさっき市長が言われましたが、自治区のということで聞きました。今後、自治区のそれはわかります。しかし、1回だけの研修では、到底じゃないけど防災士は育たないと思っております。だから、今後どのような形で取り扱っていくのか、お聞きしたいと思っております。

○議長（生野 征平君） 防災安全課長。

○防災安全課長（御手洗祐次君） 防災安全課長です。お答えします。

防災士の取得につきましては、本年度から本格的に県の事業で行ってきたところであります。

そういう中で、ことし由布市内の自治区推薦の防災士が60名できたということで、これが約半分の自治区ぐらいになるんじゃないかなと思います。昨年度の防災士を含めて。あと残りの半分を来年度以降に育てていきたいというふうに思っております。それから、防災士の由布市部会が設置されておりますので、ここで勉強も一緒にしていきたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（生野 征平君） 甲斐裕一君。

○議員（3番 甲斐 裕一君） 議員の中にも何名か受けられたようであります。今後、そういう形をとっていただいて、養成をしていっていただきたいと思っております。

そこで、1件聞きたいんですが、防災士の立場というか、そういうのを。というのは、立場といっても消防団員の非常勤公務員、これ防災士もそのような形になるのかどうかお聞きしたいと思います。

○議長（生野 征平君） 防災安全課長。

○防災安全課長（御手洗祐次君） 防災士につきましては、特別公務員というふうにはなりません。ただ、その地区を守っていくためのリーダー、そういう役目をしていただきたいと、そういうふうに思っております。

以上です。

○議長（生野 征平君） 甲斐裕一君。

○議員（3番 甲斐 裕一君） では、作業ですか、その防災士さんの作業、これは自治区内の安全、危険、避難場所とかそういうマップは今後つくっていくのかどうか。防災士さんによる。つまりトップに立ってやっていくのかどうか。

○議長（生野 征平君） 防災安全課長。

○防災安全課長（御手洗祐次君） お答えします。

その地区の防災士というのは、自分が一番よくわかっていると思います。そういうことで、その地区はどこが危険だとか、どこなら安全だと、そういうことはもう熟知しているとは思いますが、再度、危険区域の図面等をお配りしまして、自分たちの危険区域はどこだと、そういうことをまたお願いしたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（生野 征平君） 甲斐裕一君。

○議員（3番 甲斐 裕一君） よろしくお願ひします。

これで消防のほうのは終わりたいと思いますが、次、道路の問題でございまして、私、道路、今見ていますと、朝7時から8時、1時間ぐらいでございまして、また夕方も1時間程度、15時半から18時、2時間程度です。こういう中で、非常に渋滞が起きているわけござ

います。210号線がもう非常に消防署のところからずっと鬼崎のほうまで。それから医大のバイパス、あの辺の非常に渋滞している状況でございます。そういう中で、先ほど市長が言いましたが、龍祥寺から医大バイパスの間の左折レーンをつくらうと言いましたが、これは早くから話があっているんですけれども、課長、いつごろになったら国土交通省は。

○議長（生野 征平君） 建設課長。

○建設課長（麻生 宗俊君） 建設課長でございます。お答えいたします。

左折レーンにつきましては、今市長も述べましたように、歩道の事業を事業化しております。これと一緒に私のほうはお願いをしていきたいと考えております。

○議長（生野 征平君） 甲斐裕一君。

○議員（3番 甲斐 裕一君） では、今お願いの段階で、まだいつできるとか、そういうのは聞いてないんでしょうか。

○議長（生野 征平君） 建設課長。

○建設課長（麻生 宗俊君） 私のほうもお願いをする以上、用地等も当たっております、事業化しておりますので、今年度から調査測量を行うと聞いております。まだ工事につきましては用地関係終了後になろうかと思っております。

○議長（生野 征平君） 甲斐裕一君。

○議員（3番 甲斐 裕一君） 用地のほうも大変だと思っておりますけど、やはり事業は工事が早く完成しなければ今の解消はなかなか難しいと思っております。

それから、歩道の件でございますけど、今、天神橋からあそこ佐藤金物店、あそこまではもう歩道ができています。これから先、どのような方向でどこまでどう行くのか、もう一度お聞かせ願いたいと思います。

○議長（生野 征平君） 建設課長。

○建設課長（麻生 宗俊君） 天神橋の歩道の幅員がことし終わります。佐藤金物店のところまでは歩道でございますけど、正規の今の2メートル程度の幅員ではなくて、ちょっと若干狭いと考えております。天神橋から引き続いて、2メートルかちょっと2メートル50かに、ちょっとどちらかになると思うんですけど、その幅員を龍祥寺方向に持っていきたいということで、国土交通省は考えているようでございます。

○議長（生野 征平君） 甲斐裕一君。

○議員（3番 甲斐 裕一君） では、佐藤金物店から、私がお願いしているのは、かどやのあそこまでお願いしているわけでございます。というのは、今鶴田から向原の間、これが今学校の登下校のルートになっていると思います。そういう中で、あの道路は非常に、前回、二ノ宮議員も言いましたが、あそこの車が非常に多いわけです。渋滞を避けるためにあの道路を何台も、も

うひっきりなしに行くような状況でございます。それで、私は、やはり佐藤金物店から、できればかどやまで、学校の通学路として利用できるような歩道ができないかどうかお願いしたいと思っておりますが、その点、国土交通省のほうにはお願いできるかどうか。

○議長（生野 征平君） 建設課長。

○建設課長（麻生 宗俊君） お答えいたします。

この歩道の事業、いつの天神橋の事業につきましても、通学路の関係もございまして、自治区、学校関係者等と調整をしまして要望した事業でございます。

○議長（生野 征平君） 甲斐裕一君。

○議員（3番 甲斐 裕一君） それはわかるんですが、安全な通学路ということで、確保ということで、それもお願いしていただきたいなと思っておりますので、その点、よろしくお願ひしたいと思ひます。

それと、次に、先ほど市長が県道、菊家のほうから挾間の保育所までですか、道路の拡幅ができるということをお聞ひしておりますけど、あそこが拡幅できましても、あそこの郵便局から何松までの間、非常に車があそこをめぐらして来ているようにあります。それで、1車線しかないのにずっと並ぶんですから、何松の上まで非常に渋滞するわけです。これの緩和をどのように考えているのかどうか、県のほうは。

○議長（生野 征平君） 建設課長。

○建設課長（麻生 宗俊君） お答えいたします。

ただいま事業化している事業は、北方工区ということで、宮田団地入り口から何松医院の下のほうまでの工区設定をしております。議員言われる箇所につきましても、道路が狭い状況ではございますけど、県の考え方としては、北方工区終了後、赤野地区を先行しようかなというような考えでございます。

○議長（生野 征平君） 甲斐裕一君。

○議員（3番 甲斐 裕一君） 今の渋滞の緩和はちょっと難しいなと、課長に回答をお聞きして、そう思っているところではございますが、その点について1点だけ私の案でございますけど、今由布川グラウンドから海老毛、あそこまで2車線、また歩道までついております。あれがあのまま何の役にもといますか、大変失礼ですけどもなっていないんじゃないかなと思っております。これについて、今何松までの渋滞、これを避けるためにどこか柏野、あのあたりの国道につながるような道路は考えてないかどうかお聞きしたいと思ひます。

○議長（生野 征平君） 建設課長。

○建設課長（麻生 宗俊君） お答えいたします。

現在、挾間の都市計画関係の見直しをしております。これとも連動するような形になろうかと

思いますけど、私のほう単独でどうこうというのはちょっと今言えないような状況でございます。

○議長（生野 征平君） 甲斐裕一君。

○議員（3番 甲斐 裕一君） これ、私が議員になりだちからちょっとお話ししたんですけど、市長、どうですか。あの緩和を避けるためにひとつ、1本新しい道路を、国道に向けての道路ができないかどうか。

○議長（生野 征平君） 市長。

○市長（首藤 奉文君） それ、海老毛から向こうに抜ける道が計画、昔あったというような話を聞いておりますけれども、今の状況の中ではちょっと不可能じゃないかと私は認識しております、今はちょっと財政状況とかいろんな状況も考えていかないといけないという状況でありまして、今はそういう現状です。

○議長（生野 征平君） 甲斐裕一君。

○議員（3番 甲斐 裕一君） できればその方向づけをしていただいて、といいますのも、国道210号線、かなりのまた今後とも将来的に考えられるのは、ほんとに渋滞区間が長くなると思っております。そういう中で、できれば今、海老毛から国道に抜ける道路、ひとつ考えていっていただきたいなと思っております。

これで一般質問を終わるわけでございますが、今終わりたいと思いますが、民主党のマニフェストで、「コンクリートから人へ」という政府案をなしていますが、このために道路事業の予算が極端に、自治体においてくるのが少ないと聞いております。南田代東行線もかなり落とされたようにあります。それで工事の予算が半減したような形になっております。このため、ちょうど12月でございます。由布市の道路改良が今後計画どおりに進んでいただく状況を求めるために、予算計画、事業の計画をしっかりと立てて、国に予算要求をしていっていただきたいと思っております。そういう中で、皆さん大変御苦勞なされると思いますが、道路については建設課長、ひとつしっかりと考えて、よい由布市、住みよい、優しい由布市にしていいただきたいなと思っております。

これで一般質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。

○議長（生野 征平君） 以上で、3番、甲斐裕一君の一般質問を終わります。

.....

○議長（生野 征平君） ここで、暫時休憩します。再開は15時10分とします。

午後2時59分休憩

.....

午後3時10分再開

○議長（生野 征平君） 再開します。

次に、1番、鷺野弘一君の質問を許します。鷺野弘一君。（拍手）

○議員（1番 鷺野 弘一君） 1番議員、鷺野弘一です。議長の許可をいただきましたので、ただいまより3点につきまして一般質問を行います。また、答弁のほうはよろしく願いいたします。

先日の一般質問の席で佐藤郁夫議員が、由布高校の問題について質問されました。私も、やっぱり考え方は違うのですが、同感な考え方でございます。ことし、由布高の問題は、我が町にとって3大ニュースの中に入るぐらいの大きな問題があると思います。私は、その中においても特にスクールバス、私はいつも言うておりましたが、今年の7月にスクールバスの検討問題なんか行いましたけれども、そういう問題が、全くてこ入れができていなと。そういう中で、できなければ廃止するとかいうようなことをする。こういうことがやはり由布高の今の存続のあり方の中にあって、一番大きな問題であるのではないかというふうに考えております。

前例がないからできないのではないんです。先駆者になるためには努力をしなければいけない。そういうのをやはり皆さんで話し合っていく。だから、そういうために各委員会があって、しているわけですがけれども、全くそういう改善面がないというふうに私は思っております。これから市長が、由布高校に対して、存続に対補助金をたくさん出しています。その中において、そのお金を有効に使うような考え方をぜひ皆さんと力を出してやっていきたいというふうに思っております。よろしく願いいたします。

それでは、私の質問に入ります。よろしく願いいたします。

まず第1に、病児保育への経済的導入ということで、皆さんは、病児保育とはどのようなことか知っていますか。病児保育とは、単に子どもが病気のとときに保護者にかわって世話をするだけでなく、専門家である保育士、看護師、栄養士、医師などが保育と看護を行うことをいいます。病気のとときは、保護者が看護してあげることが最も必要なことですが、保護者の就労と育児を支援し、子どもに対して専門的な看護と保育の知識や技術を持ったエキスパートによって適正な環境とケアを提供することは子どもの健康と幸せを守る意味で大切なことだと思っております。

思い出してみますと、テレビなどの1シーンで、子どもの看病で休みが続き、会社に居づらくなる場面が脳裏を横切り、もどかしさを感じたこともあります。現在、病児保育とは、10歳未満の子どもに対し、病気で登園、登校ができなくても、子どもを預かり、適切な看護と保育を受けることができる制度があるのです。

まず、例ですが、大分子ども病院、これは私、子ども病院に行つて勉強してきましたが、キッズケアルームを例に挙げると、大分市民は1日当たり2,000円で預けることができます。大分市以外の方が預ける場合は4,850円の経費が必要となります。私は、この差額について由布市からの支援をお願いしたいというふうに思っております。

また、年金病院存続問題の中で地域医療に携わっていくとありましたが、年金病院にできるのならば小児科などの新設をお願いしたい。また、市長も、存続問題の中で一緒に力をしてきたわけですが、ぜひ年金病院に小児科の設置をお願いし、その中において病児保育施設の開設はできないかというふうに思っております。ぜひとも前向きな意見をこれでいただきたいと思います。

続きまして、小学校の廃校後の施設管理と今後はということ、廃校後の管理、草刈り、施設の安全について、現在では朴木小学校、星南小学校がまだ今誰も手つかずの学校となっておりますが、学校の管理、草刈りは年に何回行い、学校周りにある立木の管理、落ち葉の迷惑などはかけていないかということについてお尋ねをします。また、屋根や外壁の安全対策、これ確認はしているのか、これもお聞きします。

次、2番目に、市内、地元、市外に廃校の運用について呼びかけたことがありますか。朴木小学校は今どようになっているのか、また星南小学校は今どようになっているか、この呼びかけでどのように動きがあるのかも教えてください。

また、3番目に、各学校に設置しております、これは特に庄内の学校になりますけれども、給食室、調理施設の管理状況は今どようになっているのか。何かこれは使用目的を持ってそのまま置いているのか、また、いつでも使用できるように点検等はされているのかお尋ねをします。

続きまして、農業営農センター開設についてですけれども、市長は現在、どのような支援を、農協に対してですけれども、農協と農政課ともにありますけれども、農協がどのように指導しているのか、また、農政課がどのような指導を行っているのかお聞きします。また、農業に対して市長はどのようなかがをお持ちなのか、もう一度お尋ねしたいと思います。

さきに二ノ宮議員が、合併後、農業団体に対する補助金がなくなっていると言われましたが、市長はこのことに対して、農業に対してどのような補助金を出しているのか、またしなければいけないと思っているのかも聞かせください。

2番目に、農業後継者の育成についてですが、何か行っていますか。現在、由布市内に農業後継者クラブ、私たちの時代でありますと農村青年連絡協議会というのが各町役場の中に一緒にあり、活動していましたが、今こういう施設、跡取りのこういう農業関係の団体はあるのかについてお尋ねします。

また、3番目に、先ほどちょっとダブりますが、農協と営農センター設置について、さきの議会の席では、検討するという、いいような意見をいただいておりますけれども、JAに対してどのような活動をするのか、話し合いをされたことがありますか。また、そこに職員をどのように置くとかというような話もされているのかについてお尋ねしたいと思います。

以上、大きな項目3点について質問します。優しくわかりやすい答弁をひとつよろしくお願

します。再質問はこの場所で行います。よろしくお願いいたします。

○議長（生野 征平君） 市長。

○市長（首藤 奉文君） それでは、1番、鷲野弘一議員の御質問にお答えいたします。

最初に、病児保育についてであります。

由布市小児科の医療機関が1カ所で、施設に余裕がなく、設置ができないことから、現状では市内の実施は困難な状況でございます。大分市の施設を実費で使用している由布市市民が年間60件を超えておまして、助成を含めて支援の検討をしていきたいと考えております。

次に、廃校後の施設管理についてであります。廃校後の残務整理が終了して一、二年を経て、行政財産から普通財産へと変更し、契約管理課で現在管理をしております。学校施設では、その地域の象徴的施設であることから、地域住民の皆さんが深い愛着を持っており、草刈りについても自主的に行っている施設もございます。また、市で業者委託により草刈りを行っている施設もございます。現在、廃校となっている全ての施設で工房等の利用や利用予定がございまして、施設の安全性は基本的に確保または確保される予定であります。

次に、農業支援についてであります。由布市における農業は、農業従事者の高齢化、担い手の減少、農産物価格の低迷といった多くの問題を抱えておまして、一層の衰退が懸念されているところであります。由布市の主要産業である農業を持続的に発展させるためには、農業が直面する課題を的確に捉えて、柔軟に対応することが必要だと思っております。今後も、農業振興を重点施策として位置づけ、現在取り組んでいる事業の拡充を図るとともに、営農指導体制の強化にも努めてまいりたいと考えております。

次に、農業後継者の育成につきましては、これもまた大きな課題であると捉えております。現在取り組んでいる「人・農地プラン」策定を行う中で集落営農の組織化、法人化の推進や認定農業者の育成、次世代の担い手を含めた地域農業のあり方について今後も検討してまいりたいと考えております。

次に、営農指導センターの設立についてであります。JAとの協議を行ってまいりましたが、JAは現在、経営合理化のため人員削減に取り組んでおまして、営農センターへの出向は難しいとの見解であります。由布市といたしましても、職員の配置や財政面などの問題を伴いますので、現時点での営農指導センターの設立は難しいと考えております。

以上で、私からの答弁を終わります。

○議長（生野 征平君） 教育次長。

○教育次長（森山 泰邦君） 教育次長です。各学校に設置している給食室の管理状況についてお答えいたします。

庄内地域の阿南小学校、西庄内小学校、南庄内小学校、阿蘇野小学校、庄内中学校においては、

配膳室として使用をいたしております。大津留小学校は老朽化のため取り壊しを行いました。東庄内小学校の給食室につきましては、配膳室として使用していますが、施設の一部を由布市地産地消・特産品ブランド化推進協議会に地産地消の調査研究のための施設として貸し出しをいたしております。

挾間、湯布院地域につきましては、挾間小学校、湯布院小学校敷地内にありました給食センターの施設を学校施設の耐震化による増改築工事の際に取り壊しを行っております。

以上でございます。

○議長（生野 征平君） 鷲野弘一君。

○議員（1番 鷲野 弘一君） ありがとうございます。

それでは、順番は前後しますけれども、まず営農指導センターについてお尋ねをします。

今、市長の答弁の中で、後継者クラブは今ないというふうに私お伺いしました。私も農業後継者クラブ農村青年連絡協議会の出身でございます。そして、私たちの時代にはやはり地元で残っているものをどんどん声呼びかけをしまして、当時の庄内町役場と一緒に活動し、県の事業にもどんどん参加し、してきました。当時は全国大会に行ったり、この庄内町が日本で一番になるような賞ももらった経験がございます。そういう中で、心のよりどころになるような施設づくりをまず組織をつくっていかねばいけないと思うんですけれども、まず由布市内にそういう組織がなくなっているということについてびっくりしたんですけれども、農政課長、現状、やっぱり今もうそういうのが全くないのか、また地元に残っている農業後継者というんですか、跡取り息子なんかの把握はされているのか、その辺をちょっと聞きたいんですけれども、お願いします。

○議長（生野 征平君） 農政課長。

○農政課長（平松 康典君） 農政課長です。お答えいたします。

由布市には、大分県農業青年連絡協議会の下部組織である地区連絡協議会は現在のところ存在をしておりません。それから、農業後継者が何人おるかということにつきましても把握をしておりません。

以上です。

○議長（生野 征平君） 鷲野弘一君。

○議員（1番 鷲野 弘一君） ありがとうございます。それでは、さっき新井議員が質問の中で、今何か組織がないのかというたときに、推進委員会とかいうのがあるととかいうふうな話をしよったんですけど、この組織というのは、農業の再生するようないくつかの組織なのか、どういう組織なのかちょっとお教え願ってよろしいですか。

○議長（生野 征平君） 農政課長。

○農政課長（平松 康典君） お答えいたします。

先ほどの新井議員の質問につきましては、事業を推進するための推進協議会があるのか、どういう組織かというお尋ねでございました。それは、事業を推進していく上で必要な予算の確保やさまざまな要望活動を行う組織でございます。

以上です。

○議長（生野 征平君） 鷺野弘一君。

○議員（1番 鷺野 弘一君） その推進協議会のメンバーはどういう方がなられているのか、ちょっとお聞きしてよろしいですか。

○議長（生野 征平君） 農政課長。

○農政課長（平松 康典君） 大分県下の14市町でつくられている組織でございます。

以上です。

○議長（生野 征平君） 鷺野弘一君。

○議員（1番 鷺野 弘一君） これは大分県下、大分県の組織ですね。この由布市の中にそういう組織は推進する何か組織というのはいないんですか、今。由布市の中に。農業のそういう推進する事業というのは。県下ではなくて、この由布市の中に何かそういう組織はないのか、ちょっとお尋ねします。

○議長（生野 征平君） 農政課長。

○農政課長（平松 康典君） お答えいたします。

平成23年度に、将来予想される課題や近々の問題を解決というか、相談する由布市農業振興連絡会というのを、農業振興にかかわる関係機関とともに立ち上げをしております。

以上です。

○議長（生野 征平君） 鷺野弘一君。

○議員（1番 鷺野 弘一君） その農業振興会議のメンバーはどういう方がなられているのか、それも一遍聞かせてもらってもよろしいですか。

○議長（生野 征平君） 農政課長。

○農政課長（平松 康典君） お答えいたします。

大分県中部振興局生産流通部、それから農山漁村振興部、それからJA由布事業部、それから由布市農政課でございます。

以上です。

○議長（生野 征平君） 鷺野弘一君。

○議員（1番 鷺野 弘一君） お尋ねしますけれども、この組織には農業の農家が全く入ってないように見えるんですけれども、一般の参加とかいうことは何でこれ行っていないのか、ちょっと

とお教えいただけますか。

○議長（生野 征平君） 農政課長。

○農政課長（平松 康典君） 農家の方は現在のところ入っておりませんが、農家が抱える問題などを把握するためによい試みだと思しますので、今後、農家の方を入れるような方向で検討してまいりたいと思います。

以上です。

○議長（生野 征平君） 鷺野弘一君。

○議員（1番 鷺野 弘一君） ありがとうございます。できれば、こういう組織の中から次世代を担う後継者が出ないかというふうには私は思うわけです。

先日も、梨農家の若手の息子さんと話をしたときに、もう僕梨やめたとか言うわけですが、簡単に。何でやちゅうと、おやじが金くれんから、俺はもうやめるわとかち、短気的な意見を言いよったんですけども、そういうことがないように私も願っているわけですが、そういう組織をつくって、どういうふうにかの中で父親なんかと事業をやっていくかというふうな話がみんな持てるような会があればいいなと。私たちのときも、どうすればこれから食うていけるかなとかいうような話もそういう組織の中でしていました。心のよりどころになるような施設づくりをぜひともやっていただきたいというふうには思います。ぜひ今後は、こういう組織に農家をまず入れてほしい。まず1番。

それと、青年部組織というのは、各家に後継者が、回られればやっぱりいるのはわかると思います。特に、甲斐専門員なんかにお尋ねすると、指導員にお尋ねすれば、各地区にどういう方がおるかというのはよくわかると思いますので、ぜひそういう拾い出しと名簿づくりをやり、そういうふうな組織づくりをぜひやりながら、市長、そういう組織に、これからの由布市の農業を守っていくわけですから、ぜひとも何か心の支えを1つつくっていただきたいというふうには思います。

これについてはまた折を見てまた質問していきたいと思しますので、その名簿づくりはぜひともやっていただきたいというふうには思いますが、農政課長、お願いしてよろしいですか。

○議長（生野 征平君） 農政課長。

○農政課長（平松 康典君） 把握してまいりたいと思います。

○議長（生野 征平君） 鷺野弘一君。

○議員（1番 鷺野 弘一君） ありがとうございます。よろしくお願いします。

また、先ほど言いました営農センター設立についてですが、私は前向きに進んでいるのかなというふうに思っちゃったんですけども、なかなか農協が人員削減をしてというふうな話、由布事業部がそういうふうな今活動になっているのかもしれない。確かに今年度、由布事業部にお

きましては、農協におきましては監査が県下で5農協入る中の1農協というのが由布事業部です。確かに今、大変経営が厳しいのがこの由布事業部ですが、そういうふうな農協の中にありますと、新しいそういうふうな事業に参入したいといっても参入ができないのが今現状なんです。そのときに、これはもう農政課、建設部長、どちらが農協と話をしたのかちょっとわかりませんが、話す内容としてどういうふうな話し方をしたのか、ちょっとお教え願えません。どちらでも構いません。お願いします。

○議長（生野 征平君） 産業建設部長。

○産業建設部長（工藤 敏文君） 産業建設部長です。お答えします。

私と農政課長と2人で参りました。要点は、営農センター設立について双方で人を出すことが可能でありましょうかというお話し合いでありました。JAさんも営農指導面が弱体化、後退しているということはよく認識されております。ただし、経営合理化の中でなかなか私どもから新たな組織に人を出向させることは、現時点ではちょっと困難なようにありますという回答をいただいております。

私どもも、今市長の回答にありましたように、財政面等を考慮しますと、新しい組織を今立ち上げることは困難であるという判断でございます。

以上です。

○議長（生野 征平君） 鷺野弘一君。

○議員（1番 鷺野 弘一君） 考え方はいろいろありますね。部長から今大変いい意見をいただいたんですけども、出向させることはできないかと農協のほうに言われたというふうにありますけれども、人数が少ない中で、じゃ農協が市役所のほうに人員を出向させることができるかという、それはできんと思います。私は、農政課にちょっとお尋ねしたいんですけども、合併してもう約7年たちますが、職員が当時からのどのくらいの今状況になっているのか、何人ぐらい——私農政のほうもたしか削減されているんじゃないかと思うんですけども、何人ぐらい当時から比べたら削減されているのか、人数がどのくらい減っているのかお聞かせ願ってよろしいですか。

○議長（生野 征平君） 農政課長。

○農政課長（平松 康典君） 合併当時と何人少なくなっているかというのは、ちょっと把握しておりませんが、三、四人は少なくなっているんじゃないかと思われま。

以上です。

○議長（生野 征平君） 鷺野弘一君。

○議員（1番 鷺野 弘一君） ありがとうございます。3人ぐらい少なくなっている。確かにそれだけではないと思います。ブランド推進課ができたり、やっぱり職員がそういうところに出向

したりしている状況ですから、目に見えた減少というのはあると思います。私、5人ぐらいもう減りになっているんじゃないかところいうふうに思うんですけども、そういう中において、市役所もやはり人数がそういうふうに削減しながらしている。農協もしている。そういうときに、農協に出てこいなんか言っても農協は到底出ることにはできません。できるんならば私は農協の中に市から職員をもう少し送ることはできんかと。それは送るにしても大変難しいこと。それはもう誰が思うてもできるわけではないわというふうに思いますが、嘱託職員の採用なんかをして、それを逆に農協に送り、もう指導は農協に任せるんじゃないかというふうなやり方も1つの方法ではないかと思うんですけども、そういう考えは農政課の中、またこれ部長、課長よりも部長のほうがそれはもう一番あれかとは思いますが、部長、どうでしょうか。そういうふうな考え方は1つなかったのか、お教え願えませんか。

○議長（生野 征平君） 産業建設部長。

○産業建設部長（工藤 敏文君） 産業建設部長です。お答えします。

仮に、私どもで普及指導員を嘱託等で雇ったとしても、それはあくまでも市に対する農業関係の要望とかあるいは市が抱える問題解決のために県とか国の農政との連携の中で業務を行う職員だと考えております。そういうことを考えれば、私どもがお雇いした農業指導員をJAの営農指導部門に参加させるというのは問題があると考えています。

○議長（生野 征平君） 鷺野弘一君。

○議員（1番 鷺野 弘一君） 現状では、市役所も当時は私たち庄内町でしたけれども、庄内町はやっぱり指導センターというのがありました。そういう中に役場と農協がくっついて、そして私たちもいちごに参入していたというような経過もあります。考え方とすりゃできんことはないわけなんです。

私が今一番言いたいのは、今部長も言われましたけれども、国に対してとはいう一言の中で、今農家は大変困っているわけなんです。何かというと、農協は金融庁の今組織、金融庁がお金を預かっているわけです。昔のように、農水省が補助事業なんか介入できるような状況にならなければ、今、健全な農家であっても、農協に、じゃ、ちょっと悪いけど金貸してくれんか。省力化する事業のために何をしたら金貸せといっても、今農協は貸し渋りをするような状況になっているんです。そういうふうな農家の悩みを一つ一つ拾い上げていくのには、市役所の中に座っていても何もできないんです、これは。そのためにも市長、やはりそういうふうな農家の意見を一つ一つ拾って歩くためにも、各農家を回り指導のできる、そういうふうなセンターづくりをやっていただきたいというふうに私は何度も言うてきた。この1年言うてきていますけれども、その辺も1つ加味したような考え方をここでしないのではなくて、ああ、そういうふうな方法もあるんだなど、もう少し検討させてくれという言い方になりませんか。

○議長（生野 征平君） 市長。

○市長（首藤 奉文君） 本来、農業というのは、農協が農業指導を行って、そして生産を高めて、その生産したものを販売する、流通機関に通すことによって農業はしっかりした農業になっていく、それが本当の姿であると思います。それが農家から離れて、販売業とかそういう状況に変わってしまう農協であれば、農家の皆さんの信頼は全くなくなってしまうと。今、現状はそれに近い状況であると私は認識しています。

そういう中で、じゃ市が営農指導するのかということになると、これまた大変難しい問題があります。しかしながら、現在、そういう状況の中でありますけれども、1人ほど営農指導員を雇用して、それで地域の中で野菜等々の指導を行ってきているわけでありますが、そういう状況がもっと必要であれば、人数をひとつふやすとかいうことについてもこれから検討してまいりたいと考えております。

○議長（生野 征平君） 鷺野弘一君。

○議員（1番 鷺野 弘一君） ありがとうございます。実際において、今農協の集荷率は17%ぐらいと、大変今一時期に比べて下がっております。でも、さわやか農協一つ、もうさわやか農協じゃなくて由布事業部でありますけれども、やはりこれから先、ライスセンター等の建設等、いろいろまだ仕事が残っております。今ここでやっぱり切り離してやめるというわけにはいかないうような事業がたくさんありますので、ぜひとも市のほうからもう少しお力をいただいて農家存続、また市長のいつも言葉でありますけど、やっぱり農業のまちである以上、その農業をこれから先にも発展させていくために、もう少し農家を奮起をさせるためにも、そういう指導員、また各家を回るといことは大変必要なことです。皆さん、やっぱり回ってくるだけで、何だろうかと皆さん言います。今かえって農家のほうがことは知っちゃうんやという方も多いです。けども、回ってきてくれる心のやすらぎが今一つのよりどころが欲しいというような意味で私言っておりますので、ぜひとも冷たく放すのではなく、力が両方ないときにはやっぱりどうか、何かやすい、できるだけ力で前向きにするように、皆さんの御協力をぜひともよろしく願います。市長、ほんと大変ですけれども、1人またふやしてくれるという先ほどの案もありますので、ぜひともそれが前向きにいきますようよろしく願いしてよろしいですか、検討を。ありがとうございます。

それでは、次に移ります。次は、廃校問題の管理ですけれども、現状、これは契約管理課長がいいですか。今廃校問題の場所はどのようになっているのか、どのように管理されているのか。

それとまた、管理状況はどうあるのかというをちょっとお教えてください。

○議長（生野 征平君） 契約管理課長。

○契約管理課長（安部 悦三君） 契約管理課長でございます。お答えいたします。

現在、廃校施設は由布市には3校ほどございます。旧石城西部小学校、旧朴木小学校、旧星南小学校、この3校でございます。

石城西部小学校につきましては、現在、若い芸術家の方がアトリエとして創作活動に使っております。朴木小学校につきましては、現在、大分市内の会社から、借りたいという申し入れが来ておまして、協議をしているところでございます。星南小学校跡地につきましては、災害支援物資の保管場所として現在使っております。また、幼稚園の園舎につきましては、書類の保管場所として現在使用中でございます。

以上でございます。

○議長（生野 征平君） 鷺野弘一君。

○議員（1番 鷺野 弘一君） ありがとうございます。石城西部については、これは学びのともしびと、これは「学びやのともしび」というこれは県が出している冊子ですけれども、県下各地区の学校利用についてはこれに載っております。見るたびに、いつも星南が残っているなど、私、地元庄内ですから、星南が残っていることに対して大変いつも寂しさを覚えております。

その中におきまして、学校の草刈りとか周りの雑木、雑木というよりも周りに植えている木とかが周りの地区の方に御迷惑をかけていないのか、また、さっき市長が学校でそういうふうには、校区で管理をされているところもあるというふうに言われましたけれども、実際それがどれであるのか、ちょっとお答えいただきたいと思います。

また、外壁とか屋根の安全対策については、こういうのは点検をされているのか、これも契約管理課長でよろしいですか。ちょっとお答えください。

○議長（生野 征平君） 契約管理課長。

○契約管理課長（安部 悦三君） 契約管理課長です。お答えいたします。

安全の点検につきましては、定期的に、二、三カ月に1回でございますけれども、現地に赴きまして、危険箇所、破損箇所がないかは確認しております。

それから、草刈り等につきましては、星南小学校につきましては、今年度につきましては、シルバー人材センターのほうにお願いして、草刈り作業をしていただいたところでございます。それでよろしゅうございますか。

○議長（生野 征平君） 鷺野弘一君。

○議員（1番 鷺野 弘一君） ありがとうございます。管理は台風前とか大変ではないかというふうには思っておりましたけれども、見回りをされているということで安心しました。これからもまた利用がない場合においては、この点検は万全にして、周りには一切事故が起こらないように、ひとつよろしくお願ひします。

また、施設が老朽化等でどうにもならない場合は早目の取り壊しをすとかいうような検討も

これから先お願いします。その中におきまして、星南小学校におきましては支援物資を中に置いていて。また、幼稚園の跡地については資料をその中に置いていたというような話をされていますけれども、これは契約管理が管理しながら、防災のほうの中を利用しようということになるんですか。それともまた、それと幼稚園も、もうこれ一般財源になっているから管理課が持っていると思うんですけど、管理は。その中において、みんながそれを利用しようわけですけども、そのときの管理料というのはどこが持つか、それを教えてくださいませんか、責任も。

○議長（生野 征平君） 契約管理課長。

○契約管理課長（安部 悦三君） 契約管理課長です。お答えいたします。

星南小学校につきましては、今議員御指摘のとおりでございます。各課が使用するに当たりましては、契約管理課のほうに使用願を出していただいて、一応どういうものを置くかということを確認して、許可という形で使用しております。

○議長（生野 征平君） 鷺野弘一君。

○議員（1番 鷺野 弘一君） 庄内中学の寮が廃校になったときに、そこが資料の置き場所になっていた。今度は、もうあそこは取り壊しをしたから、今度は星南小学校の中の星南幼稚園にその資料を置くのかと。もう少し資料を置くとか、資料は大切なものなんだから、やはり安全に確保できるところに置かなきゃいけない。まずあそこを2つ見たら、幼稚園のほうは木造校舎じゃない。本校舎のほうは、小学校のほうは鉄筋である。どちらが安全かといったら本校舎のほうの方が安心があるんです。やはり資料は安全なところに、必要だから置いていると思うから、そのような考え方がないのか、ちょっと課長、そこを教えてくださいなんですが。

○議長（生野 征平君） 契約管理課長。

○契約管理課長（安部 悦三君） 契約管理課長です。お答えします。

文書等の資料につきましては、古い資料を置いているようでございます。どういう資料を置くかについては、うちの課では詳しくは把握してないのが実情でございます。

○議長（生野 征平君） 鷺野弘一君。

○議員（1番 鷺野 弘一君） 何もかもやはり私に言わせれば、契約管理が余りに持ち過ぎるんじゃないか。それは財産として持たなきゃ悪いのはわかるんですけども、管理状況に置いては、今携わっている部門が管理をするような仕方ですか、しなきゃほんとは悪いんじゃないかというふうに思います。特に、防災課長もきょうは私がいるから待っててくれたんかと思うんですけども、中に水を置いているというんですけども、この水は大体どのくらいの量置いているんですか。

○議長（生野 征平君） 防災安全課長。

○防災安全課長（御手洗祐次君） 防災安全課長です。お答えします。

水は来年の3月31日までが期限となっております。そういうことで、今、各地の防災の訓練等に配付をしております。中にあります防災製品です。これにつきましては、庄内の四恩の森の東側の駐車場に11月末に3基ほど防災倉庫を設置しました。そこに、倉庫には、学校の中にある品物をこちらのほうに持って行って、星南小学校をあけたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（生野 征平君） 鷲野弘一君。

○議員（1番 鷲野 弘一君） ありがとうございます。こういう質問をするとすぐにそういうのが解決になるから、大変好きですから、ぜひともよろしく願いいたします。

私、星南小学校の跡地は何に使うのかというと、もし災害が起こったときの避難場所等にも使うというふうに話を聞いていたんですけども、実際、今あそこに小学校が、昨年度は長野のゆうゆう館に西庄内の生徒が遠足に行くと。じゃ、ことしは場所を変えて、星南があいているから星南に行こうかと行きかけたら、星南はトイレが使えないと、水も飲めない。だからもう行かない。遊具も使えないから行かないようにしようということで何か中止になったという話を聞いたんですけども、災害時にもし仮にあの施設を使うとしたときに、そういうふうな水も使われないような施設、やっぱり水が上にタンクをためる、一遍ため置き施設じゃないかというふうに思うんですけども、その辺の管理状況はどうなっているのか、またいざそうなったときにどういうふうにするのかという使い方。何か私、おかしかったか。ちょっとお教えいただきたいんですが。

○議長（生野 征平君） 防災安全課長。

○防災安全課長（御手洗祐次君） 防災安全課長です。星南小学校の中の施設は、避難施設には指定されておられません。講堂は一時的な避難所としては指定しておりますが、小学校自体は避難所としてはまだ指定をしておりません。そういうことで、水については、そういう事態があるのかなというふうに思っております。ありがとうございました。

○議長（生野 征平君） 鷲野弘一君。

○議員（1番 鷲野 弘一君） 部長に聞いたときは、学校は避難所になっているという話を聞いたもんですから、これちょっと質問したんですけども、ちょっと言われた方が違うちょっとたんであるということで判断しますが、仮に避難所として場所として使わなきゃ悪いとしたときに、やはり1階あたりは水道を直につないで、いつでも水が使えるような、水道水がそのまま使えるような考え方も今からの考え方ではないかと思しますので、ひとつ防災課長、やっぱり長いスパンを考えたときに、そういうふうなことができないか、また検討をよろしく願いいたします。

それと、その次にあります施設の他の県外また市内、市外に対して、使用、どこか入る方がいないとかいうような使用目的の呼びかけをしたことがあるのかというふうに思うんですけど

も、星南小学校の場合そういう呼びかけはしたのか、また、そういう計画を考えているのか、このまま空き学校として持っていくのか、そのところはどのようなふうに市が考えているかちょっとお聞かせ願ってよろしいですか。

○議長（生野 征平君） 契約管理課長。

○契約管理課長（安部 悦三君） 契約管理課長です。お答えいたします。

星南小学校を使いたいという、使わせてもらえないかという問い合わせは過去何回かございました。その問い合わせに対して、現地に案内したりして見ていただいて、話はしたんですけども、最終的に使うという段階まではいかなかったのが現実でございます。

そういうことで、ちょこちょこ問い合わせ等あっていましたので、市外の方にアピールするという行為はしてこなかったところがございますけれども、考える必要があるかなと思います。

○議長（生野 征平君） 鷲野弘一君。

○議員（1番 鷲野 弘一君） ありがとうございます。先ほど避難所にしても使わないという話を聞きましたので、もう使用目的がないのであれば、やはりどこか呼びかけをして、新たな使用目的を考えてくれるというのが一番適切なことだと思いますので、これは総合政策がこういうのに対しては、まず力を注いでやってもらわないと悪いと思います。余り1カ所の、契約管理がこういうのを持ち過ぎるからこういうふうになるんじゃないかと思うんですけど、使用目的なんかのことを考えるには総合政策なんか力を入れて今から先やっていってもらいたいというふうに思うんですが、課長、一言お願いできますか。

○議長（生野 征平君） 総合政策課長。

○総合政策課長（溝口 隆信君） 総合政策課長です。お答えいたします。

議員おっしゃるとおりでございますけれども、一応廃校のときに地域との協定をつくると思います。その協定が第1条件になろうかと思っておりますけれども、その協定の中で、市外、県外の企業についても誘致したいというふうなことがあれば、それは当然私どもの課として考えていきたいというふうに考えております。

○議長（生野 征平君） 鷲野弘一君。

○議員（1番 鷲野 弘一君） ありがとうございます。ぜひともよろしく申し上げます。管理を任せるほうはもう中の草刈りとか、問題もひとつ解決できますので、ぜひとも何か新しい使用目的がありましたら、ぜひ呼びかけをしてやっていってもらいたいと思います。ぜひとも次の改訂版がこれはできている。使っていますよというふうになるように、ぜひとも頑張ってくれるようによろしくお願いたします。

また、各学校にありました給食質問の跡、これについては私が聞いている範囲では、もし何かの災害があったときに、炊き出しをしたりするために残しているというような話を聞いたんです

けれども、次長、こういうふうな話はないのかあるのか、ちょっと聞かせてもらってよろしいですか。

○議長（生野 征平君） 教育次長。

○教育次長（森山 泰邦君） お答えいたします。教育次長です。

緊急時にはそうした、議員のおっしゃるような形での利用があろうかと思えます。

以上です。

○議長（生野 征平君） 鷺野弘一君。

○議員（1番 鷺野 弘一君） ありがとうございます。そのためにも、いわゆるいつも使わないのではなくて、いつでも使われるような状況づくり。だから、父親と学校の中で料理教室とか、料理教室でも余り大きいものですから、それができるかどうかわかりませんが、何かやはり、年に何回ずつかイベントかなんかでも使って、ほんとに使えるという状況を把握できるようにお願いしたいんですが、次長、どうでしょうか。

○議長（生野 征平君） 教育次長。

○教育次長（森山 泰邦君） 教育次長です。お答えいたします。

各学校のほうとも協議しながら、そうした活用について考えてまいりたいと思えます。

以上です。

○議長（生野 征平君） 鷺野弘一君。

○議員（1番 鷺野 弘一君） ありがとうございます。ぜひとも、いざとなって使われないのではなくて、いつでも使えるような状況づくり、確認をやはり、ある施設ですから、使えるようにひとつ管理をやっていただきたいと、管理点検をやっていただきたいというふうをお願いいたします。

続きまして、病児保育についてですが、私、きょう言いました大分子ども病院キッズきららルームの例を挙げてしまいましたけれども、大分ではほんと2,000円で1日預かってくれます。これ過去において、子どもが4人おって、そのうちの1人が病気になり、保育園が預かってくれなかった。その子どもを連れてお母さんが仕事に行き、車の中にその子を置いて放置していたらその子が死んでしまったというふうな、やっぱり悲しい、仕事を休まれないからそういうふうにした実例があって、どうにかならんかなというふうに思っている最中にそういうふうな、こういう制度がありますよという話を聞きまして、もうぜひともこれはどげえか我が町でも、皆さんが知っていただいて、やっぱり働くお母さんたち、お父さんもそうですけれども、安心してできる、これ都会型のやっぱり今典型的な核家族というんですか、そういう人たちのためにもやはりこれがないと、今から先やっていけないと思えますけれども、特にここの挟間地区におきましては、そういう核家族が多いというふうな地区状況ですので、ぜひともこれをどうにか、市長も

してくれると言いはるですけれども、私がさっき言いましたような金額ぐらいのことは考えて、市長、よろしくお願ひしたいんですが。

○議長（生野 征平君） 市長。

○市長（首藤 奉文君） これについては、きのう、副市長が答弁をしたとおりでありまして、いろんな若干の問題がございます。そういうことで、御理解いただきたいし、この差額についての支援をこちらは考えておるところであります。

○議長（生野 征平君） 鷺野弘一君。

○議員（1番 鷺野 弘一君） ありがとうございます。ぜひとも、いつも市長が言います少子化の中においての、一度最初に産んだ子どもがそういう病気になり、仕事と両立ができんからもうあと子どもが要らんとかいうふうにお母さんたちが言うと、これはもう全く由布市の子どもがふえない1つの理由になります。行政の中で一番おくらしているのは病児保育が一番おくらしているわけです。これについて、まずほんと由布市は前の議会で、12月だったですか、湊野議員が出された不育症についても、市長は前向きな検討をいただいて、やはりこういうこと一つ一つが由布市は子どもに対して大変優しいというまちづくりになるんじゃないかというふうに私思っておりますし、私もそういうまちづくりの担っていくうちの1人になれば、一緒に市長とやっていければというふうに思っておりますので、ぜひとも市長、これ前向きにお願いをしたいというふうに思っておりますが、今、補助についてはうんというふうな話をいただきましたが、年金病院の存続の中で、年金病院もやはり、由布市というのは物すごく距離的に広いんです。ほんとというと、湯布院の方は大分の病院に行くよりも別府の病院に行くほうがいい。だけど、別府の病院はもう市外の間は受け付けるなというふうな今制度になっているわけです。そうしたときに、やはり湯布院地区の方たちは次どうするかというふうになると、やはり年金病院とかにこれはやはり今からお願いをして、年金病院の中に小児科をつくっていただいて、その中に病児保育の一つになるものできないかというふうに思うわけですけれども、市長、やっぱり年金病院は地域に根差した病院になるというふうに言われておったんですけれども、市長、このところのお願いを今から先、やっていってくれることはできないことでしょうか。

○議長（生野 征平君） 市長。

○市長（首藤 奉文君） 年金の存続が可能性が高くなりましたし、小児科については全国的に大変厳しい状況にあります。そういうことでありますけれども、今議員がおっしゃったようなことについては、年金病院の院長にも話をしてみたいと思います。

○議長（生野 征平君） 鷺野弘一君。

○議員（1番 鷺野 弘一君） 湯布院の方がここ、挟間、ここに来るだけでも45分、これから大分に行くにしてもやっぱり15分ないし20分の時間がかかります。もうそれならば湯布院の

方は湯布院でどこか預かれるところをつくってあげるとというのが1つだと思います。

また、庄内、挾間においては、もう庄内、挾間の中では無理であれば、これから先、医大がそういうふうな施設もできるようになればもう医大にお願いしたいし、それがまだ無理であるならば、現状のままで何かどこかに預けるような制度づくりをこれから先やっていかないと悪いと思いますので、来年に向けてこれは大変な御無理なお願いをしていますけれども、ぜひ由布市の子育て事業の中で大切なことだと思いますので、市長、またお力をひとつよろしく願いいたします。

また、各子育て支援課、課長、大変御迷惑をおかけしますけれども、この制度づくりについて、ひとつまたお力、また局長もひとつよろしく願いいたします。

また、先ほどからお願いしております農協の指導センター、これにつきましても、前向きな話を建設部長、また農政課長、ひとつまたお力をおかしてください。よろしく願いいたします。はいがないんですけど、前向きにひとつよろしく願います。気持ちよく最後終わりたいと思いますので。じゃひとつよろしく願いいたします。（「はい」と呼ぶ者あり）

で、これで私の質問を終わります。ありがとうございました。（拍手）

○議長（生野 征平君） 以上で、1番、鷲野弘一君の一般質問を終わります。

○議長（生野 征平君） これで、本日の一般質問は全て終了いたしました。

次回の本会議は、あす午前10時より引き続き一般質問を行い、その後、議案質疑を行います。

本日は、これにて散会いたします。御苦労さまでございました。

午後4時00分散会